

富山医科薬科大学・和漢薬研究所活動報告書

1. 和漢薬研究所の概要（各部門の研究目的および主要な研究課題）

2002.4現在

研究部門等	研究目的および研究課題
漢方薬学部門 教授 谿 忠人 助手 山路誠一	目的：漢方医薬の経験知を継承し、現代医療における価値を創造する研究。 課題：1. 栽培飼育化の検討と地球環境に配慮した品質評価法の開発と応用、漢方薬の来源と経験知の医薬史学的研究（漢方薬材学）。 2. 現代のコア医療を補完する漢方方剤の検証、軽医療を担う新たな生薬製剤の開発、漢方薬の医療情報研究（漢方薬剤学）。
生物試験部門 教授 渡邊裕司 助教授 松本欣三 助手 東田道久 技官 村上孝寿	目的：多成分系の伝統薬物である和漢薬の薬効を計量薬理学的方法により評価し、作用機序の解明と作用本体の追究を行う。 課題：1. 和漢薬の新しい薬効評価法を確立するための基礎研究。 2. 和漢薬および薬用植物の薬理作用の解析研究。 3. 中枢神経疾患（不安、うつ、痴呆など）と遺伝子発現に対する薬物作用の解析。
臨床利用部門 教授 浜崎智仁 助教授 渡辺志朗 助手 長澤哲郎	目的：天然薬物の作用機序の解明とその臨床利用。 課題：1. オメガ3系脂肪酸の健康あるいは行動に対する影響。 2. 漢方方剤のリピッドメディエーターに対する影響。 3. ミート酸の抗炎症作用について。
病態生化学部門 教授 済木育夫 助教授 櫻井宏明 助手 小泉桂一 技官 林 和子	目的：和漢薬効果に対応する体質（遺伝的要因）ならびに病態に対する和漢薬の効果を遺伝学、生化学、分子生物学ならびに免疫学など多面的に解析する。 課題：1. がん転移および免疫アレルギー性疾患の制御機構の解明 2. 肺がんのリンパ節転移の分子機構の解明とリンパ管を標的とした治療戦略。 3. シグナル伝達分子による病態制御機構の解明。
化学応用部門 教授 門田重利 助教授 手塚康弘 助手 A. H. Banskota 技官 幸田恭治	目的：和漢薬及びそれに関連する動植物の生理活性成分の分離、構造解析を行なうとともに、それらの有効成分の化学的合成法を開発研究しさらに化学構造と生理活性との相関関係の究明。 課題：1. 和漢薬の生理活性成分の分離、構造解析及び化学的合成法の研究。 2. 和漢薬の化学合成と生理活性との相関関係の究明。 3. 和漢薬の作用物質本体の究明。
薬物代謝工学部門 教授 服部征雄 助教授 横澤隆子 助手 宮代博継 技官 中村憲夫	目的：和漢薬の薬効、毒性発現に関与する代謝系の分子生物学的研究。 課題：1. 天然薬物の腸内嫌気性菌による変換とその応用。 2. 担子菌類の二次代謝物の薬効とその代謝工学的研究。 3. 腎毒性物質生成機構の分子生物学的解明とその制御。
恒常性機能解析部門 （客員部門） 教授 渡部 烈	目的：シトクロム P-450 (CYP) 依存的な医薬品の体内動態に及ぼす和漢薬成分の影響を分子レベルで明らかにする。 課題：1. ヒトにおける代表的 CYP 分子種の大腸菌中での発現。 2. ヒト CYP による医薬品代謝の阻害作用を示す和漢薬成分の検索。 3. ヒト CYP 阻害作用を示す和漢薬成分の単離・構造解析。
漢方診断学部門 （寄付部門） 教授 柴原直利 助教授 喜多敏明 助教授 後藤博三 助手 趙 恩珠	目的：経験が重視される漢方医学固有の診断体系を基礎的および臨床的研究により客観化するとともに、普遍的な教育カリキュラムを確立する。 課題：1. 病態や証を客観化するための指標を探索する基礎的・臨床的研究。 2. 漢方医学的病態からみた漢方方剤の薬理効果の基礎的・臨床的研究。 3. 漢方医学的病態の古典的解釈と客観的評価を統合した臨床研修プログラムの開発。
薬効解析センター ※ センター長 （併任） 助教授 小松かつ子 助手 東田千尋	目的：民族薬物資料館に保管される生薬についてデータベースを構築しそれらの薬物の品質並びに薬効に関する研究を通じて世界の民族薬の標準化を図る。 課題：1. 民族薬物の基源と品質の解析。 2. 民族薬物の難治性の神経疾患に対する有効性の検討と作用機序の解析。

※客員教授:M.R.Meselhy 客員助教授:Dawa

◎機関研究員(postdoctoral fellow):趙 静(薬物代謝工学)

2. 2002年 和漢薬研究所活動記録

1月15日(火) 第203回研究所セミナー:富士薫博士(京都大学化学研究所教授):有機化学上の新しい概念「不斉記憶」

1月28日(月) 第204回研究所セミナー:長尾善光博士(徳島大学薬学部教授):アレン分子構造特性を基盤とする新反応及び酵素阻害剤開発研究

1月28日(月) 第205回研究所セミナー:浜田淳一博士(北海道大学遺伝子病制御研究所教授):ホメオボックス遺伝子の発現異常と癌転移

1月30日(水) 第206回研究所セミナー:Dr. Yoo Yung Choon (Konyang University, School of Medicine): Biological functions of lactoferrin and lactoferrin: Immunomodulatory and anti-tumor activity

2月1日(金) 第207回研究所セミナー:田中宏幸博士(九州大学大学院薬学研究院薬用植物育種分野助教授):薬用植物に対するモノクローナル抗体の作製と薬用植物育種研究への応用

2月15日(金) 第208回研究所セミナー:Dr. Kim Dong-Hyun (Prof. Kyung Hee University, College of Pharmacy):腸内細菌による人参サポニンの代謝と生理活性の変酵素阻害剤開発研究

3月7日(木) 第209回研究所セミナー:平良一彦博士(琉球大学教育学部教授):沖縄の長寿文化と高齢者のライフスタイル

3月11日(月) 第210回研究所セミナー:青柳一正博士(筑波技術短期大学教授):活性酸素生産調節機構:尿毒症からの解析

3月14日(木) 第211回研究所セミナー:稲垣均博士(あさなび病院透析センター):流れの可視化によるアクセス再循環(AR)の簡便な検出法・磯崎泰介博士(聖隷浜松病院腎臓内科部長):慢性腎不全における血清リン脂質脂肪酸の検討

3月15日(金) 第212回研究所セミナー:孫月吉博士(大連医科大学精神医学教授):大連近郊での自殺者の疫学

3月23日(土) 第213回研究所セミナー:家長和治博士(日本臓器製薬開発本部・部長):慢性腎不全とクレアチニン代謝

4月9日(火) 第214回研究所セミナー:王永奇博士(大連大学生物工程学院院長):紫蘇の有効成分に関する研究・鳥蘭博士(大連大学医学院医学科学研究所長):リウマチ病について

4月15日(月) 第215回研究所セミナー:西原

力博士(大阪大学大学院薬学研究科教授):内分泌攪乱物質研究の現状と課題

5月14日(月) 第6回和漢薬研究所研究発表会(担当:漢方診断学部門)

5月29日(水) 第216回研究所セミナー:Dr. Stanley M Naguwa (Dept. of Rheumatology, Allergy and Clinical Immunology, Univ. of California, Davis. Clinical Professor): Use of alternative medicines in asthma・Dr. Ikuo Sai ki (Institute of Natural Medicine, Toyama Med. and Pharm Univ. Professor): In vivo anti-metastatic action of ginseng protopanaxadiol saponins.

6月25日(火) 第217回研究所セミナー:Dr. Fredi Kronenberg (Director, the Richard and Hinda Rosenthal Center for Complementary and Alternative Medicine): Herbal medicine study in Rosenthal Center for CAM

7月12日(金) 第218回研究所セミナー:中島元夫博士(ノバルティス・ファーマ筑波研究所):分子標的:チロシンキナーゼ阻害薬(グリベック)の開発研究について

7月16日(火) 第219回研究所セミナー:真弓忠範博士(大阪大学大学院薬学研究科教授):研究と教育-Drug Delivery Systemの進歩と大学院生活の過ごし方

7月22日(月) 第220回研究所セミナー:大森謙司博士(田辺製薬(株)創薬研究所、主幹部員):組織特異的に発現する環状ヌクレオチド分解酵素(PDE)と創薬研究について

8月2日(金) 第221回研究所セミナー:江角浩安博士(国立がんセンター研究所支所長):ガン細胞の栄養飢餓耐性とこれを標的とした治療法の開発

8月23日(金)~25日(日) 第6回和漢薬研究所夏期セミナーを主催(担当:臨床利用部門)

9月13日(金) 第222回研究所セミナー:蔡少青博士(北京大学薬学院教授・副院長):補陽還五湯の有効成分について

9月28日(土) 第223回研究所セミナー:Dr. Byung Pal Yu (Prof. Department of Physiology, The University of Texas Health Science Center at San Antonio): Modulation of aging process and oxidative stress by calorie restriction

10月4日(金) 第22回和漢薬研究所特別セミナーを主催(担当:化学応用部門)

11月2日(土) 民族薬物資料館一般公開(担当: 薬効解析センター): 公開講座 小松かつ子センター長: モンゴル、チベット薬草紀行

11月11日(月) 第224回研究所セミナー: Dr. Soejarto Djaja D. (Prof. of pharmacognosy and Biology, PCRPS, College of Pharmacy, Univ. of Illinois): Studies on biodiversity of Vietnam and Laos under the international cooperative biodiversity group program An overview on progress and accomplishments

2. 2002年 和漢薬研究所活動記録

漢方薬学部門

教授 谿 忠人
助手 山路 誠一

◇著 書

- 1) 難波恒雄, 山路誠一, 小松かつ子, 伏見裕利: 紫蘇葉~竹節人參, 「和漢薬の事典」富山医科薬科大学和漢薬研究所編, 128~198, 朝倉書店, 東京, 2002

◇原著論文

- 1) D. -W Kim, H. -J. Chung, K. Nose, I. Maruyama and T. Tani: Preventive effects of a traditional Chinese formulation, Chaihu-jia-Longgu-Muli-tang, on intimal thickening in rat artery injured by balloon endothelial denudation, *J. Pharm. Pharmacol.*, 54, 571~575, 2002
- 2) 張 樹祥, 谿 忠人, 山路誠一, 高 小麗, 王 ·, 蔡 少青, 趙 玉英: 長茎金耳環脂溶化学成分の研究, *中草药*, 33, 297~299, 2002
- 3) 片貝真寿美, 赤丸敏行, 谿 忠人: 処方と生薬の使用頻度から『傷寒論』の用薬規範を探る, *薬史学雑誌*, 37, 28~35, 2002
- 4) Y. Yamamoto and T. Tani: Growth and glycyrrhizin contents in *Glycyrrhiza uralensis* roots cultivated for four years in the eastern Nei-Meng-gu of China, *J. Trad. Med.*, 19, 87~92, 2002
- 5) M Matsuno, T. Tani and I. Saiiki: Organ selectivity of Juzen-taiho-to and Ninjin-yoei-to in the expression of anti-metastatic efficacy, *J. Trad. Med.*, 19, 93~97, 2002
- 6) L. -H. Xie, X. Wang, P. Basnet, N. Matsunaga, S. Yamaji, D. -Y. Yang, S. -Q. Cai and T. Tani: Evaluation of variation of acteoside

and three major flavonoids in wild and cultivated *Scutellaria baicalensis* roots by micellar electrokinetic chromatography, *Chem Pharm Bull.*, 50, 896~899, 2002

- 7) J. -X. He, T. Akao and T. Tani: Development of a simple HPLC method for the determination of paeoniflorin-metabolizing activity of intestinal bacteria in rat feces, *Chem Pharm Bull.*, 50, 1233~1237, 2002
- 8) A. Namera, M Yashiki, Y. Hirose, S. Yamaji, T. Tani and T. Kojima: Quantitative analysis of tropane alkaloids in biological materials by gas chromatography-mass spectrometry, *Forensic Science International*, 130, 34~43, 2002

◇学会報告

- 1) 谿 忠人: 【ワークショップ講演】「和漢薬の卒前卒後教育」, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 2) J. -X. He, T. Akao and T. Tani: Influence of co-administered antibiotics on pharmacokinetic fate of paeoniflorin from Shaoyao-Gancao-tang, The 19th Annual meeting of medical and pharmaceutical society for WAKAN-YAKU, Chiba, 2002. 8
- 3) H. -J. Chung, I. Maruyama and T. Tani: Saiko-ka-Ryukotsu-Borei-To inhibits intimal thickening in carotid artery after balloon endothelial denudation in cholesterol-fed rats, The 19th Annual meeting of medical and pharmaceutical society for WAKAN-YAKU, Chiba, 2002. 8
- 4) D. -W Kim, H. -J. Chung, B. -Y. Cha and C. -H. Kim: Inhibitory effect of Shihogayogolmo-ryeu-tang on MMP-2 and MMP-9 gelatin zymography, The 19th Annual meeting of medical and pharmaceutical society for WAKAN-YAKU, Chiba, 2002. 8
- 5) 水野昌樹, 鄭 和珍, 丸山征郎, 谿 忠人: バルーン擦過傷害後のラット頸動脈内膜肥厚に対する牛黄の抑制作用, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 6) 間嶋孝美, 手賀栄治, 櫻井宏明, 濟木育夫, 谿 忠人: IgE 介在性3相性皮膚反応を指標にした炙甘草と甘草の比較, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 7) 片貝真寿美, 谿 忠人: 生薬の使用頻度, 帰

- 経論から『傷寒論』の特徴を探る, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 8) 府和隆子, 片貝真寿美, 小曾戸 洋, 谿 忠人: 生薬の使用頻度から『脾胃論』の特徴を探る, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 9) 馬場達也, 西野隆雄, 谿 忠人: 木クレオソート丸剤から *guaiacol* の溶出と吸収におよぼす陳皮末の影響, 第 19 回和漢医薬学会, 千葉, 2002. 8
- 10) 横田洋一, 津野敏紀, 鈴木英世, 谿 忠人: 熊胆とその偽物, 偽和物の HPLC-profile を用いた principal component analysis, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 11) 山本 豊, 谿 忠人: 内蒙古自治区東部で栽培した *Glycyrrhiza uralensis* 根の栽培年数と規格: *Glycyrrhizin* 含量を中心に, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9 (ポスター受賞)
- 12) 蔡 少青, 王 · , 魯 寅生, 楊 冬野, 蕭 紅斌, *Liang Xin-Mao*, 山路誠一, 谿 忠人: 中薬オウゴンの HPLC-fingerprint による品質評価, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 13) T. Tani: 【招待講演】The Influences of co-administered synthetic drugs on the pharmacokinetic fate of glycyrrhizin and paeoniflorin from Shaoyao-Gancao-Tang, The 1st International Conference of the New Development of Chinese Traditional Medicine Research (Chinese Traditional Medicine Association of Tianjin and the Association of Combining Traditional Chinese and Western Medicine), Tianjin, China, 2002. 10
- 14) 谿 忠人: 【特別講演】柴胡の薬能と薬理, 日本東洋医学会関西支部和歌山県部会, 和歌山, 2002. 11
- 15) 谿 忠人: 【特別講演】漢方薬学からみた六君子湯証, 日本東洋医学会九州支部熊本県部会, 熊本, 2002. 12

◇海外調査

- 1) 山本 豊, 谿 忠人: 甘草資源の調査研究, 中国新疆ウイグル自治区, 2002. 7. 30~8. 8.
- 2) 水野昌樹, 谿 忠人: 牛黄資源の調査研究, 中国陝西省, 西安, 武漢, 2002. 9. 20~25

◇その他

- 1) 谿 忠人: 談論自由席(コラム), 北日本新聞,

2002. 5. 8

- 2) 谿 忠人: おいしい漢方薬, 市民公開講座(主催: 大阪漢方医学振興財団), 大阪, 2002. 6
- 3) 谿 忠人: 不足と過剰を調整する薬用食材, 2002 薬膳セミナー(主催: 中村学園大学・上海中医薬大学), 福岡, 2002. 8
- 4) 谿 忠人: わかった気になる漢方薬学, 和漢薬研究所夏期セミナー(主催: 和漢薬研究所), 富山, 2002. 8
- 5) 谿 忠人: 漢方薬の薬能と薬理, 漢方薬・生薬認定薬剤師講座(主催: 日本薬剤師研修センター・日本生薬学会), 大阪, 2002. 9
- 6) 谿 忠人: 中国における栽培甘草の研究結果の報道(記事), 富山新聞, 2002. 9. 30
- 7) 谿 忠人: 「歴史が育てた薬の文化」, 北日本放送TV(放映), (富山オリジナルブランド配置薬開発事業の紹介) 2002. 10. 20
- 8) 谿 忠人: 富山オリジナルブランド配置薬開発事業のTV番組内容紹介(記事), 薬日新聞, 2002. 11. 13
- 9) 谿 忠人: 富山オリジナルブランド配置薬開発研究結果の報道(記事), 北日本新聞, 2002. 11. 18.
- 10) 谿 忠人: 富山オリジナルブランド配置薬開発研究結果の報道(記事), 富山新聞, 2002. 12. 31

生物試験部門

教授	渡 邊 裕 司
助教授	松 本 欣 三
助手	東 田 道 久
技 官	村 上 孝 寿

◇著 書

- 1) 渡辺裕司: 中枢神経系に作用する薬物, 「Integrated Essentials 薬理学改定第4版」, 粕谷豊, 加藤仁, 重信弘毅編, 185~254, 南江堂, 東京, 2002

◇原 著

- 1) 張紹輝, 村上孝寿, 東田道久, 松本欣三, 榊原巖, 高山廣光, 相見則郎, 渡辺裕司: 鈎藤散, 鈎藤鈎及びそのアルカロイド成分の脳虚血予防作用: マウス水迷路学習行動を指標として, *Journal of Traditional Medicines*, 19, 28~36, 2002
- 2) E. Dong, K. Matsumoto and H. Watanabe: Diazepam binding inhibitor (DBI) reduces testosterone and estradiol levels in vivo,

- Life Sciences, 70, 1317~1323, 2002
- 3) T. H. Kang, K. Matsumoto, M Tohda, Y. Murakami, H. Takayama, M Kitajima, N. Aimi and H. Watanabe: Pteropodine and isopteropodine positively modulate the function of rat muscarinic M₁ and 5-HT₂ receptors expressed in *Xenopus* oocyte, *European Journal of Pharmacology*, 444, 39~45, 2002
 - 4) M Sukma, C. Chaichantipyuth, Y. Murakami, M Tohda, K. Matsumoto and H. Watanabe: CNS inhibitory effects of barakol, a constituent of *Cassia siamensis* Lank, *Journal of Ethnopharmacology*, 83, 87~94, 2002
 - 5) 趙琦, 渡辺裕司, 村上孝寿, 東田道久, 松本欣三: 自然発症高血圧ラットにおける釣藤散の抗高血圧作用: 釣藤鈎及び石膏の役割について, *Journal of Traditional Medicines*, 19, 153~157, 2002
 - 6) LX. Hai, T. Kogure, A. Niizawa, H. Fujinaga, I. Sakakibara, Y. Shimada, H. Watanabe and K. Teresawa: Suppressive effect of hochu-ekki-to on collagen induced arthritis in DBA1J mice, *Journal of Rheumatology*, 29, 1601~8, 2002
 - 7) M Tohda, M Sukma, Y. Nomura and H. Watanabe: The mRNA Expression of Serotonin 2C Subtype Receptors Uncoupled With Inositol Hydrolysis in NG108-15 Cells, *Japanese Journal of Pharmacology*, 90, 138~44, 2002
 - 8) T. H. Kang, Y. Murakami, K. Matsumoto, H. Takayama, M Kitajima, N. Aimi and H. Watanabe: Rhynchophylline and isorhynchophylline inhibit NMDA receptors expressed in *Xenopus* oocytes, *European Journal of Pharmacology*, 455, 27~34, 2002
 - 9) N. Skalko-Basnet, M Tohda and H. Watanabe: Uptake of Liposomally Entrapped Fluorescent Antisense Oligonucleotides in NG108-15 Cells: Conventional versus pH-Sensitive, *Biological & Pharmaceutical Bulletin*, 25, 1583~7, 2002
- ◇学会報告
- 1) H. Watanabe: 日本における伝統薬とその将来, 円光大学薬学大学国際シンポジウム, Iksen, Korea, 2002. 1
 - 2) 中島隆太郎, 東田道久, 渡辺裕司: ラット慢性虚血脳中で早期に発現増大する新規内在性因子, 第75回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
 - 3) 姜太炫, 松本欣三, 高山廣光, 北島満里子, 相見則郎, 渡辺裕司: *Uncaria tomentosa* 含有アルカロイドによるセロトニン₂及びムスカリン M₁ レセプターの修飾: *Xenopus* oocyte 遺伝子発現系での検討, 第75回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
 - 4) 松本欣三, Pui a Giulia, Menville Jean-Marc, 渡辺裕司, Costa Ermnio, Guidotti Alessandro: 脳内アロプレグナノロン量の減少による GABA 作動性神経伝達機能の低下, 第75回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
 - 5) 渡辺裕司: シンポジウム「和漢薬研究の新しい展開」: 漢方製剤の臨床再評価の現状, 第75回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
 - 6) M Sukma, Y. Murakami, M Tohda, K. Matsumoto and H. Watanabe: タイ薬用植物 *Cassia siamensis* の成分 barakol の中枢作用, 第106回日本薬学会北陸支部例会, 富山, 2002. 6
 - 7) H. Watanabe: Japanese Kampo medicine: its present and future, M Mars International symposium on traditional medicine, Beijing, China, 2002. 7
 - 8) P. Mahakunakorn, M Tohda, Y. Murakami, K. Matsumoto and H. Watanabe: Protective effect of Choto-san and its related constituents on hydrogen peroxide-induced cell damage in NG108-15 cells, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 9) 趙琦, 渡辺裕司, 榊原巖, 張紹輝, 村上孝寿, 東田道久, 松本欣三: 釣藤鈎フェノール分画及び成分の降圧, 脳虚血予防作用, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 10) H. Watanabe: きのこの和漢薬性: 特徴と応用, 日本応用きのこ学会第6回大会, 鳥取, 2002. 9
 - 11) H. Watanabe: Basic and clinical studies of the effect of a Kampo medicine on vascular dementia, The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, Kyoto, 2002. 10
 - 12) G. Pinna, K. Matsumoto, E. Dong, E. Costa and A. Guidotti: Stereoisomers and metabolites of fluoxetine (Flx) normalize neurosteroids and minimize aggression of socially isolated mice in manner unrelated to SSRI activity, Society for Neuroscience 32nd annual meeting, Orland, 2002. 11

◇その他

- 1) 松本欣三: GABA 作動性神経ステロイド allopregnanolone を介した薬理, 日本薬理学雑誌, 119: 59, 2002
- 2) R. Jeenapongsa, M Tohda and H. Watanabe: Choto-san inhibits vof-21 mRNA expression in permanent ischemic brain and prolongs sleeping time, 財団法人東京生化学研究会国際共同研究助成事業研究成果発表会, 東京, 2002. 12

臨床利用部門

教授 浜崎 智仁
助教授 渡辺 志朗
助手 長澤 哲郎

◇著 書

- 1) 浜崎智仁: EPA/DHA 誰もが必要な栄養素, 魚油が与える身体, 精神への好影響, (株)メディアカルトリビューン, 東京, 2002
- 2) 奥山治美, 市川祐子, 孫月吉, 浜崎智仁, Lands WEM: 心疾患予防—コレステロール仮説から脂肪酸の n-6/n-3 バランスへ, 学会センター関西, 大阪, 2002
- 3) 渡辺志朗: エイコサペンタエン酸 (EPA) の最新情報を教えて下さい, これだけは知っておきたいアラキドンカスケード Q&A, 室田誠逸編, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2002

◇原 著

- 1) T. Hamazaki, A. Thi enprasert, K. Khenvichai, S. Samuhaseneetoo, T. Nagasawa, and S. Watanabe: The Effect of Docosahexaenoic Acid on Aggression in Elderly Thai SUBJECTS — a placebo-controlled Double-blind study, Nutritional Neuroscience, 5, 37~41, 2002

◇総 説

- 1) 浜崎智仁: コレステロールの摂取は危険か?, キューピーニュース, 2002

◇学会報告

- 1) M Itomura, K. Hamazaki, Y. Yamazaki, N. Hamazaki, S. Sawazaki, K. Terasawa and T. Hamazaki: Aggression and the Fatty Acid Composition of Red Blood Cells (RBCs) in Schoolchildren, 5th Congress of the

- International Society for the Study of Fatty Acids and Lipids, Montreal, 2002. 5
- 2) K. Hamazaki, M Itomura, M Huan, H. Nishizawa, S. Sawazaki, S. Nakajima, S. Watanabe, T. Hamazaki and K. Terasawa: The effect of a low dose of eicosapentaenoic acid on serum lipids in normotriglyceridemic and hypertriglyceridemic humans: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial, 5th Congress of the International Society for the Study of Fatty Acids and Lipids, Montreal, 2002. 5
- 3) T. Hamazaki: Effect of DHA on the human hostile behavior, 26th Annual Larval Fish Conference, Bergen, 2002. 7
- 4) T. Hamazaki, M Itomura, K. Hamazaki and S. Sawazaki: The Effect of DHA on Behavior and Blood Catecholamines, 5th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, Taipei, 2002. 8
- 5) M Doshi, S. Watanabe, T. Niimoto, K. Matsumoto, K. Akimoto, Y. Kiso and T. Hamazaki: Effect of Dietary Enrichment with Docosahexaenoic Acid or (N-9) Eicosatrienoic Acid on Lipid Mediator Generation in vivo and Acute and Chronic Inflammation in Mice, 5th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, Taipei, 2002. 8
- 6) K. Hamazaki, M Itomura, M Huan, H. Nishizawa, S. Sawazaki, M Tanouchi, S. Watanabe, T. Hamazaki, K. Terasawa and K. Yazawa: The Effect of Docosahexaenoic Acid-Containing Phospholipids on Blood Catecholamine Concentrations in Healthy Volunteers: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial, 5th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, Taipei, 2002. 8
- 7) 糸村美保, 浜崎景, 長澤哲郎, 渡辺志朗, 浜崎智仁, 沢崎茂樹, 寺澤捷年: ドコサヘキサエン酸 (DHA) 含有食品が小学生の情動におよぼす影響, 第 11 回日本脂質栄養学会, 函館, 2002. 9
- 8) 浜崎景, 糸村美保, H. Mngning, 西澤弘人, 渡辺志朗, 浜崎智仁, 沢崎茂樹, 寺澤捷年, 中島秀司, 寺野隆, 秦葭哉, 藤代成一: エイコサペンタエン酸 (EPA) 含有飲料が血清脂質に及ぼす影響について, 第 11 回日本脂質

- 栄養学会, 函館, 2002. 9
- 9) 浜崎智仁: 魚油による冠動脈疾患の予防, 第75回日本生化学会, 京都, 2002. 10
- 10) 道志勝, 渡辺志朗, 浜崎智仁: 食餌DHAによるマウス脳内 2-アラキドノイルグリセロールレベルの変動, 日本薬学会第122年会, 千葉, 2002. 3

◇その他

- 1) T. Hamazaki : Book review [Fatty Acids -Physiological and Behavioral Functions- D. I. Mostofsky, S. Yehuda, N. Salem Jr. (editors). Human Press, Totowa, new Jersey, 2001]. Eur J Lipid Sci Technol., 104, 246, 2002
- 2) 浜崎智仁: なぜ今、脂肪酸栄養か?, 日本国際生命科学協会 (ILSI), 68, 71~74, 2001
- 3) 浜崎智仁: EPA/DHA の新しい展開-心疾患から精神疾患へ, 栃木県産婦人科医報, 29, 70, 2002
- 4) 浜崎智仁: DHA の敵意性抑制効果, 老化抑制と食品=抗酸化・脳・咀嚼=/第3章食品成分と脳神経系機能の老化抑制 編集独立行政法人食品総合研究所, 183~196, 2002
- 5) 浜崎智仁, 澤崎茂樹: DHA と高血圧 (3章2節), DHA と心筋梗塞, 不整脈 (3章3節), DHA の慢性関節リウマチに対する効果 (4章4節) 精神疾患と DHA (7章2節) 抗心血管系疾患作用 (8章3節) その他の疾患の予防, 治療効果 (8章6節), DHA の生理機能の解析-内外の知見のとりまとめ-/DHA 高度精製抽出技術研究組合, 2002
- 6) 浜崎智仁: 日本脂質栄養学会リノール酸摂取量削減と油脂食品の表示改善を提言, 日経バイオテク, 17~18, 2002
- 7) 浜崎智仁: 日本には高コレステロール血症を危険とする確かなデータは存在しない!, 薬学図書館, 47, 352~353, 2002
- 8) 浜崎智仁: 講演「EPA・DHA の栄養学的意義」H14 年度病院栄養士協議会総会研修会, 石川, 2002. 4. 14
- 9) 浜崎智仁: 講演「N-3 多価不飽和脂肪酸の国内外の研究動向について」DHA・EPA 協議会第5回通常総会, 東京, 2002. 5. 16
- 10) 浜崎智仁: 講演「今時のコレステロール事情 -コレステロールは本当に悪者! ?」H14 年度健康教育, 富山, 2002. 5. 30
- 11) 浜崎智仁: 講演「よく知って怖くない! コレステロールのお話」H14 年度健康教育, 富山, 2002. 6. 25

- 12) 浜崎智仁: 学術講演「EPA/DHA-効果とその臨床的判定法」東京水産大学, 東京, 2002. 6. 20
- 13) 浜崎智仁: 浜崎智仁: 講演教育セミナー「脂質と癌」第11回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会, 東京, 2002. 7. 12
- 14) 浜崎智仁: 講演「食の第三機能-EPA と DHA」H14 年度健康医学講演会, 富山, 2002. 11. 9
- 15) 浜崎智仁: 講演「いま, 子供の"心"が危ない!」おさかなフォーラム, 東京, 2002. 11. 11
- 16) 浜崎智仁: 「リノール酸取りすぎに注意」日本脂質栄養学会提言記事, 北日本新聞, 2002. 9. 14
- 17) 浜崎智仁: 「からだ」掲載, 食事制限より血圧管理, コレステロール関連記事, 産経新聞, 2002. 11. 13

病態生化学部門

- 教授 濟木 育夫
 助教授 中島 松一
 (～平成14年3月31日)
 助教授 櫻井 宏明
 (平成14年4月1日～)
 助手 小泉 桂一
 技官 林 和子

◇著 書

- 1) 小泉桂一, 濟木育夫: 第V編 肺癌の転移機構, 1. 血行性転移の分子機構, 2. 接着分子群, 「肺癌の診断と治療-最新の研究動向-」, 日本臨床, pp97~102, 2002 年増刊
- 2) 濟木育夫: 「和漢薬の辞典」, 富山医科薬科大学/編集, 難波恒雄 監修: 朝倉書店, 2002 年

◇原 著

- 1) Y. Tsuchiya, S. Sawada, K. Tsukada and I. Sai ki : A new pseudo-peptide of Arg-Gly-Asp (RGD) inhibits intrahepatic metastasis of orthotopically implanted murine hepatocellular carcinoma. Int. J. Oncol., 20, 319~324, 2002
- 2) O. Nagakawa, J. Mirata, A. Junicho, T. Matsuda, Y. Fujiuchi, H. Fuse and I. Sai ki : Vasoactive intestinal peptide (VIP) enhances the cell motility of androgen receptor-transfected DU-145 prostate cancer cells (DU-145/AR), Cancer Lett., 176, 93~99, 2002

- 3) N. Sizemore, N. Lerner, N. Dombrowski, H. Sakurai and G.R. Stark: Distinct Roles of the I κ B kinase α and β subunits in liberating nuclear factor κ B (NF- κ B) from I κ B and in phosphorylating the p65 subunit of NF- κ B. *J. Biol. Chem.*, 277, 3863~3869, 2002
- 4) J. Mizukami, G. Takaesu, H. Akatsuka, H. Sakurai, J. Ninomiya-Tsuji, K. Matsumoto and N. Sakurai: Receptor activator of NF- κ B ligand (RANKL) activates TAK1 mitogen-activated protein kinase kinase through a signaling complex containing RANK, TAB2, and TRAF6. *Mol. Cell. Biol.*, 22, 992~1000, 2002
- 5) S. Sawada, K. Mirakami, T. Yamaura, N. Mitani, K. Tsukada and I. Saiki: Therapeutic and analysis model of intrahepatic metastasis reflects clinical behavior of hepatocellular carcinoma. *Jpn. J. Cancer Res.*, 93, 190~197, 2002
- 6) T. Tatsumi, M. Terasawa, E. Tega, Y. Hayakawa, K. Terasawa and I. Saiki: Immunopharmacological properties of Oren-gedoku-to (a Kampo medicine, Huang-Lian-Jie-Du-Tang) on contact hypersensitivity reaction in mice. *J. Trad. Med.*, 19, 21~27, 2002
- 7) Y. Miraishi, N. Mitani, H. Fuse and I. Saiki: Effect of a Matrix metalloproteinase inhibitor (ONO-4817) on lung metastasis of murine renal cell carcinoma. *Anticancer Res.*, 21, 3845~3852, 2002
- 8) J. Ueda, Y. Tezuka, A.J. Banskota, G.L. Tran, Q.K. Tran, Y. Harimaya, I. Saiki and S. Kadota: Antiproliferative activity of vietnamese medicinal plants. *Biol. Pharm. Bull.*, 25, 753~760, 2002
- 9) T. Sasamura, S. Nakamura, Y. Iida, H. Fujii, J. Murata, I. Saiki, H. Nojima and Y. Kuraishi: Morphine analgesia suppresses tumor growth and metastasis in a mouse model of cancer pain produced by orthotopic tumor inoculation. *Eur. J. Pharmacol.*, 441, 185~191, 2002
- 10) Q.L. Tran, I.K. Adnyana, Y. Tezuka, Y. Harimaya, I. Saiki, Y. Kurashige, Q.K. Tran and S. Kadota: Hepatoprotective effect of majonoside R2, the major saponin from Vietnamese ginseng (*Panax vietnamensis*), *Planta Med.*, 68, 402~406, 2002
- 11) H. Hasegawa, R. Suzuki, T. Nagaoka, Y. Tezuka, S. Kadota and I. Saiki: Prevention of growth and metastasis of murine melanoma through enhanced natural-killer cytotoxicity by fatty acid-conjugate of protopanaxatriol. *Biol. Pharm. Bull.*, 25, 861~866, 2002
- 12) E.S. Nakamura, F. Kurosaki, M. Arisawa, T. Mukainada, J. Takayasu, M. Okuda, H. Nishino and F. Jr. Pastore: Cancer chemopreventive effects of a Brazilian folk medicine, Juca, on in vivo two-stage skin carcinogenesis. *J. Ethnopharmacol.*, 81, 135~137, 2002
- 13) M. Matsuo, T. Tani and I. Saiki: Organ selectivity of Juzen-taiho-to and Ninjin-yoei-to in the expression of anti-metastatic efficacy. *J. Trad. Med.*, 19, 93~97, 2002
- 14) H. Hasegawa and I. Saiki: Psychosocial stress augments tumor development through α -adrenergic activation in mice. *Jpn. J. Cancer Res.*, 93, 729~735, 2002
- 15) T. Nagaoka, A.H. Banskota, Y. Tezuka, I. Saiki and S. Kadota: Selective antiproliferative activity of caffeic acid phenethyl ester analogues on highly liver-metastatic murine colon 26-L5 carcinoma cell line. *Bioorg. Med. Chem.*, 10, 3351~3359, 2002
- 16) E.S. Nakamura, F. Kurosaki, M. Arisawa, T. Mukainada, M. Okuda, J. Takayasu, H. Nishino and F. Jr. Pastore: Cancer chemopreventive effects of constituents of *Caesalpinia ferrea* and related compounds. *Cancer Lett.*, 177, 119~124, 2002
- 17) Y. Hayakawa, K. Takeda, H. Yagita, M.J. Smyth, L.V. Kae, K. Okumura and I. Saiki: IFN- γ -mediated inhibition of tumor angiogenesis by the natural killer T cell ligand, α -galactosylceramide. *Blood*, 100, 1728~1733, 2002
- 18) Y. Harimaya, K. Koizumi, T. Andoh, H. Nojima, Y. Kuraishi and I. Saiki: Potential ability of morphine to inhibit the adhesion, invasion and metastasis of metastatic colon 26-L5 carcinoma cells,

Cancer Lett., 187, 121~127, 2002

- 19) H. Sakurai, A. Nishi, N. Sato, J. Mizukami, H. Miyoshi and T. Sugita: TAK1-TAB1 fusion protein: a novel constitutively active mitogen-activated protein kinase kinase that stimulates AP-1 and NF- κ B signaling pathway, Biochem Biophys. Res. Commun., 297, 1277~1281, 2002
- 20) M Ogasawara, T. Matsunaga, S. Takahashi, I. Saiki and H. Suzuki: Anti-invasive and metastatic activities of evodiamine, Biol. Pharm Bull., 25, 1491~1493, 2002

◇総 説

- 1) 済木育夫：特集「EBMにもとづくアレルギー疾患の漢方治療」，講座 アレルギー性皮膚疾患に用いられる漢方方剤，アレルギー・免疫，9，790~799，2002
- 2) 済木育夫：連載「現代西洋医学からみた東洋医学」，漢方薬の抗腫瘍効果とその作用機序－補剤を用いた癌転移の抑制－，医学のあゆみ，202，205~209，2002
- 3) 済木育夫：スペシャルインタビュー「スピリリナ」，体と栄養のメカニズム，元気生活，90，34~41，2002
- 4) 済木育夫：4. 補剤 現代医学の立場から，第14回伝統医学臨床セミナー「虚弱者に頻用される処方」，日本東洋医学雑誌，53，297~309，2002
- 5) 済木育夫：特別講演「漢方方剤のアレルギー疾患治療への応用－基礎からの提言－」，日本小児東洋医学会誌，18，21~26，2002
- 6) 済木育夫：特集 癌免疫治療と漢方の位置づけ，BRMとしての十全大補湯はIFN- α /Dのマウス腎細胞癌に対する肺転移抑制効果を著明に増強する，T-webs，6，10~13，2002

◇学会報告

- 1) 済木育夫：シンポジウム「アレルギー疾患における漢方薬の特性と有用性」，アレルギー疾患に用いられる漢方方剤の基礎的研究，第21回漢方免疫アレルギー研究会学術集会，東京，2002. 1
- 2) 済木育夫：アレルギー疾患に用いられる漢方薬の基礎的研究，皮膚科漢方入門セミナー，富山，2002. 3
- 3) 済木育夫：ミニシンポジウム「新しいコンセプトによる天然薬物の薬効解析」，漢方薬の薬効ならびに証の解明に向けて，日本薬学会第121年会総会，千葉，2002. 3

- 4) 済木育夫：特別講演 肺癌の縦隔リンパ節転移モデルの作製と転移抑制の試み，第6回富山肺癌化学療法セミナー，富山，2002. 4
- 5) I. Saiki: A Kampo medicine Juzen-taiho-to: Prevention of malignant progression and metastasis of tumor cells and the mechanism of action, 2002 International Symposium of Traditional Korean Medicine - What is Eohyul? -, Seoul, 2002. 4
- 6) 済木育夫：シンポジウム1「和漢薬研究の最前線 ゲノムからのアプローチ」，漢方薬の使用指針である「証」の解明に向けて，第53回日本東洋医学会，名古屋，2002. 5
- 7) 小澤陽子，小泉桂一，大橋養賢，中村エリアネ，櫻井宏明，済木育夫：リンパ節転移能を有するヒト非小細胞肺癌に対する，secondary lymphoid tissue chemokine (SLC)の組織特異的増殖因子としての可能性，第11回日本がん転移学会，東京，2002. 6
- 8) 大橋養賢，土屋康紀，小泉桂一，済木育夫：肝癌肝内転移に及ぼすcurcuminの抑制効果，第11回日本がん転移学会，東京，2002. 6
- 9) 青塚保志，小泉桂一，植田康嗣，済木育夫：腫瘍血管新生におけるアミノペプチダーゼN/CD13の影響，第6回癌分子標的治療研究会，札幌，2002. 6
- 10) Y. Ueda, Y. Yamagishi, K. Samata, H. Ikeya, N. Hirayama, S. Nakaike, M. Tanaka, S. Yamaguchi, M. Shibuya, Y. Aozuka and I. Saiki: A novel VEGF-receptor binding antagonist with low molecular weight, VEGFR1155, inhibits the function of VEGF and in vivo tumor growth. 18th UICC International Cancer Congress, Oslo, 2002. 6
- 11) Y. Tsuchiya, S. Sawada, Y. Ohashi, M. Matsuo, Y. Harimaya, K. Tsukada and I. Saiki: Surgical stress augments cancer metastasis via increased expression of proteinases in the target organ of metastasis, 18th UICC International Cancer Congress, Oslo, 2002. 6
- 12) 済木育夫：特別講演「肺癌の縦隔リンパ節転移モデルの作製と転移抑制の試み」，第42回日本肺癌学会九州地方会，北九州，2002. 7
- 13) 土屋康紀，澤田成朗，大橋養賢，松尾光浩，済木育夫，塚田一博：Surgical stressの癌転移に及ぼす影響およびその関連分子の検討，第57回日本消化器外科学会総会，京都，2002. 7

- 14) 小泉桂一, 青塚保志, 植田康嗣, 櫻井宏明, 濟木育夫: アミノペプチダーゼ N(APN)/CD13 を介した癌細胞の基底膜に対する接着, 第7回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会, 名古屋, 2002. 8
- 15) 間嶋孝美, 手賀栄治, 櫻井宏明, 濟木育夫, 谿 忠人: IgE 介在性3相性皮膚反応を指標にした甘草と炙甘草の比較, 第19回和漢医薬学会総会, 千葉, 2002. 8
- 16) 長岡武馬, A. H. Banskota, 手塚康弘, 松繁克道, 小泉桂一, 播磨谷優子, 濟木育夫, 門田重利: プロポリス成分 CAPE 及びその類縁体による癌転移の抑制, 第19回和漢医薬学会総会, 千葉, 2002. 8
- 17) 長岡武馬, 手塚康弘, 門田重利, 濟木育夫: 人参トリオール系サポニン代謝物の脂肪酸抱合物による抗腫瘍効果の発現, 第19回和漢医薬学会総会, 千葉, 2002. 8
- 18) 上田純也, 手塚康弘, A. H. Banskota, Q. L. Tran, 播磨谷優子, 濟木育夫, 門田重利, Q. K. Tran: ベトナム産薬用植物 *Streptocaulon juvenas* の成分研究, 日本生薬学会第49回年会, 福岡, 2002. 9
- 19) 濟木育夫: シンポジウム 伝統医薬領域における薬理生化学的評価の進め方, 日本生薬学会第49回年会, 福岡, 2002. 9
- 20) M Matsuo, H. Sakurai and I. Saiki: A tyrosine kinase inhibitor ZD1389 (Iressa) shows antimetastatic activity using hepatocellular carcinoma (HCC), 9th International Congress of the Metastasis Research Society, Chicago, 2002. 9
- 21) 永川 修, 早川芳弘, 藤内靖喜, 古谷雄三, 濟木育夫, 布施秀樹: ヒト前立腺癌細胞株 DU-145/AD におけるインテグリンの発現と浸潤について, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 22) 小泉桂一, 小澤陽子, 大橋養賢, 中村エリアネ静, 中山隆志, 櫻井宏明, 義江 修, 濟木育夫: ヒト非小細胞肺癌 (NSCLC) に対する secondary lymphoid-tissue chemokine (SLC) のリンパ節転移亢進因子としての可能性, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 23) 松尾光浩, 櫻井宏明, 濟木育夫: マウス肝細胞癌肝内転移モデルにおける ZD1839 の効果, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 24) S. J. Lee, Y. Hayakawa, S-H. Kim and I. Saiki: Antimetastatic and immunomodulating properties of a new herbal prescription, Bojung-bangam-tang, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 25) 大橋養賢, 土屋康紀, 小泉桂一, 濟木育夫: 肝癌肝内転移に及ぼす curcumin の抑制効果の検討, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 26) 土屋康紀, 澤田成朗, 大橋養賢, 松尾光浩, 吉岡伊作, 塚田一博, 濟木育夫: 外科的侵襲による癌転移の増強は転移巣発生母地におけるプロテアーゼ発現亢進を介する, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 27) 竹田和由, 早川芳弘, 八木田秀雄, 濟木育夫, 奥村 康: TRAIL による腫瘍サーベイランス機構の解析, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 28) 濟木育夫: ランチョンセミナー「漢方薬によるがん転移の抑制」, 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10
- 29) 鈴木俊輔, 櫻井宏明, 中野裕康, 土井貴裕, 濟木育夫: NF- κ B p65 サブユニット Ser-536 のリン酸化及び脱リン酸化の解析, 第25回日本分子生物学会, 横浜, 2002. 12

◇その他

- 1) 濟木育夫: 漢方の効果 解明へ, 治療前後の血液を分析, 北日本新聞, 2002. 1. 8
- 2) 濟木育夫, 櫻井宏明, 小泉桂一: 第5回和漢薬研究所研究業績発表会, 発表, 富山, 2002. 5
- 3) 濟木育夫: 癌転移の抑制と補剤, 金沢兼六漢方集中セミナー, 富山, 2002. 5
- 4) 濟木育夫: アレルギ研究会 2002年, 「IgE 介在性三相性皮膚反応の実験モデル」, 大阪, 2002. 6
- 5) 濟木育夫: 第7回和漢薬研究所夏期セミナー "補剤って何だ?", 講演「和漢薬(補剤)は癌に本当に効果があるのか?」, 富山, 2002. 5
- 6) 濟木育夫: 癌転移に対する漢方薬の効果について, 西播臨床漢方研究会, 姫路, 2002. 8
- 7) 濟木育夫: 漢方薬(補剤)によるがん転移の抑制効果, 静岡県東部支部学術講演会, 沼津, 2002. 8
- 8) 濟木育夫: 今月のトピック 富山の産官学共同研究はどこまで進んでいるのかー最前線の研究現場から(2), 実業之富山, 2002. 9. 5
- 9) 濟木育夫: 漢方薬はがんの転移に効果があるか?, 「がんをめぐる最近の話題」第32回大阪薬科大学公開教育講座, 大阪, 2002. 9
- 10) 濟木育夫: 漢方薬(補剤)によるがん転移の

抑制効果, 「漢方入門セミナーin 富山・不定愁訴と漢方」, 富山, 2002. 10

- 11) 済木育夫: 「田中原理」で漢方・富山, タンパク質の解析応用: 治療法研究, 世界へ, 富山新聞, 2002. 10. 12.
- 12) 済木育夫: 特別講演: 漢方方剤の使用指針である「証」の解明に向けてーアレルギー性疾患モデルを用いてー, 第15回内灘漢方研究会, 金沢, 2002. 10
- 13) 済木育夫: 漢方薬, 効果をデータベース化, 田中さん開発の技術で血液のたんぱく質分析, 読賣新聞, 2002. 11. 28
- 14) 済木育夫: スペシャルレクチャー 漢方薬(補剤)によるがん転移の抑制効果, 漢方医学カンファレンス2002(II), 東京, 2002. 11
- 15) 済木育夫: 漢方薬の使用指針である「証」の解明に向けて, ノーベル化学賞受賞の技術を応用した新たな漢方研究, 第78回東洋医学フォーラム, 東京, 2002. 12
- 16) 済木育夫: 特別講演 漢方薬(補剤)によるがん転移の抑制とその作用機序, 第11回日本東洋医学会東海支部岐阜県部会, 岐阜, 2002. 12
- 17) 済木育夫: 漢方の投薬基準作成へ, 富山医薬大, ツムラと協力, 富山新聞, 2002. 12. 15

化学応用部門

教授 門田重利
助教授 手塚康弘
助手 Arjun H. Banskota
技官 幸田恭治

◇著書

1) 門田重利, 手塚康弘: 「和漢薬の辞典」(分担), 富山医科薬科大学和漢薬研究所(編集), 難波恒雄(監修), 朝倉書店, 東京, 2002. 6

◇原著

- 1) Z. Yuan, Y. Tezuka, W. Fan, S. Kadota and X. Li: Constituents of the Underground Parts of *Glehnia littoralis*. *Chem Pharm Bull.*, 50, 73~77, 2002
- 2) S. Awale, Y. Tezuka, S. Shimoji, K. Taira and S. Kadota: Secoorthosiphols A-C; Three Highly Oxygenated Secoisopimarane-type Diterpenes From *Orthosiphon stamineus*, *Tetrahedron Lett.*, 43, 1473~1475, 2002
- 3) A. H. Banskota, T. Nagaoka, L. Y. Sumioka, Y. Tezuka, S. Awale, K. Midorikawa, K.

Matsushige and S. Kadota: Anti-proliferative activity of the Netherlands propolis and its active principles in cancer cell lines, *J. Ethnopharmacol.*, 80, 67~73, 2002

- 4) S. Awale, Y. Tezuka, A. H. Banskota, K. Kouda, K. M. Tun and S. Kadota: Four Highly Oxygenated Isopimarane-Type Diterpenes of *Orthosiphon stamineus* from Myanmar, *Planta Med.*, 68, 286~288, 2002
- 5) T. Akihisa, E. M. K. Wijeratne, H. Tokuda, F. Enjo, M. Toriumi, Y. Kimura, K. Koike, T. Nikaido, Y. Tezuka and H. Nishino: Eupha-7, 9(11), 24-trien-3b-ol ("Antiquol C") and Other Triterpenes from *Euphorbia antiquorum* Latex and Their Inhibitory Effects on Epstein-Barr Virus Activation, *J. Nat. Prod.*, 65, 158~162, 2002
- 6) S. Awale, Y. Tezuka, S. Wang and S. Kadota: Facile and Regioselective Synthesis of Phenylpropanoid-Substituted Flavan-3-ols, *Org. Lett.*, 4, 1707~1709, 2002
- 7) T. Usia, A. H. Banskota, Y. Tezuka, K. Midorikawa, K. Matsushige and S. Kadota: Constituents of Chinese Propolis and Their Antiproliferative Activities, *J. Nat. Prod.*, 65, 673~676, 2002
- 8) J. Ueda, Y. Tezuka, A. H. Banskota, Q. L. Tran, Q. K. Tran, Y. Harimaya, I. Saiki and S. Kadota: Antiproliferative Activity of Vietnamese Medicinal Plants, *Biol. Pharm Bull.*, 25, 753~760, 2002
- 9) Q. L. Tran, I. K. Adnyana, Y. Tezuka, Y. Harimaya, I. Saiki, Q. K. Tran and S. Kadota: Hepatoprotective Effect of Major Saponin from Vietnamese Ginseng (*Panax vietnamensis*), *Planta Med.*, 68, 402~406, 2002
- 10) S. Awale, Y. Tezuka, A. H. Banskota, S. Shimoji, K. Taira and S. Kadota: Norstamine- and Isopimarane-type Diterpenes of *Orthosiphon stamineus* from Okinawa, *Tetrahedron*, 58, 5503~5512, 2002
- 11) H. Hasegawa, R. Suzuki, T. Nagaoka, Y. Tezuka, S. Kadota and I. Saiki: Prevention of Growth and Metastasis of Murine Melanoma through Enhanced Natural-Killer Cytotoxicity by Fatty Acid-Conjugate of Protopanaxatriol, *Biol. Pharm Bull.*, 25,

861~866, 2002

- 12) I. Mbok-Jung, H. Kim, W. Fan, Y. Tezuka, S. Kadota, H. Nishijo and M. W. Jung: Neuroprotective effects of constituents of Oriental crude drugs, *Rhodiola sacra*, *R. sachalinensis* and *Tokaku-joki-to*, against beta-amyloid toxicity, oxidative stress and apoptosis. *Biol. Pharm. Bull.*, 25, 1101~1104, 2002
- 13) T. Nagaoka, A. H. Banskota, Y. Tezuka, I. Saiki and S. Kadota: Selective Anti-proliferative Activity of Caffeic Acid Phenethyl Ester Analogues on Highly Liver-Metastatic Murine Colon 26-L5 Carcinoma Cell Line, *Bioorg. Med. Chem.*, 10, 3351~3359, 2002
- 14) K. Tomi naga, K. Higuchi, N. Hamasaki, M. Hamaguchi, T. Takashima, T. Tanigawa, T. Watanabe, Y. Fujiwara, Y. Tezuka, T. Nagaoka, S. Kadota, E. Ishii, K. Kobayashi and T. Arakawa: In vivo activation of novel alkyl methyl quinolone alkaloids against *Helicobacter pylori*, *J. Antimicrob. Chemother.*, 50, 547~552, 2002
- 15) A. H. Banskota, T. Usia, Y. Tezuka, K. Kouda, N. T. Nguyen and S. Kadota: Three New C-14 Oxygenated Taxanes from the Wood of *Taxus yunnanensis*, *J. Nat. Prod.*, 65, 1700~1702, 2002
- 16) 金 辰彦, 門田重利, A. H. Banskota, 山村重雄, 百瀬弥寿徳, 佐治大介, 石井権二: モルモット摘出回腸標本におけるステビア発酵エキスの抗 histamine 作用. *応用薬理*, 62, 105~109, 2002
- 17) T. Nishiyama, K. Ogura, H. Nakano, T. Kaku, E. Takahashi, Y. Ohkubo, K. Sekine, A. Hiratsuka, S. Kadota and T. Watabe: Sulfation of Environmental Estrogens by Cytosolic Human Sulfotransferases, *Drug Metabol. Pharmacokin.*, 17, 221~228, 2002
- of *Taxus yunnanensis*, 日本薬学会第 122 年会, 千葉, 2002. 3
- 2) 幸田恭治, 手塚康弘, A. H. Banskota, 門田重利: 新規 diarylheptanoid 類の MS/MS スペクトル. 日本薬学会第 122 年会, 千葉, 2002. 3
- 3) 王 淑敏, 手塚康弘, S. Awale, A. H. Banskota, Q. Le. Tran, 門田重利: 沱茶の成分研究, 日本薬学会北陸支部第 106 回例会, 富山, 2002. 6
- 4) 李 建平, A. H. Banskota, 手塚康弘, M. B. Gewali, 門田重利: *Hematoxylon campechianum* および *Artemisia vulgaris* の血糖降下作用, 日本薬学会北陸支部第 106 回例会, 富山, 2002. 6
- 5) J. Yin, Y. Tezuka, K. Kouda, Q. Le. Tran, T. Miyahara, Y. Mikami, Y. Chen and S. Kadota: Isolation of six new saponins from antiosteoporotic fraction of *Dioscorea spongiosa*, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 6) 岩田 宏, T. Usia, 手塚康弘, 門田重利, 平塚 明, 渡部 烈: 生薬エキス 83 種類によるヒト肝シトクロム P450(CYP3A4, CYP2D6) の阻害, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 7) A. H. Banskota, J. Li, N. T. Nguyen, Y. Tezuka, Q. L. Tran, and S. Kadota: Secoisolariciresinol, a Potent Hypoglycemic Agent from the Wood of *Taxus yunnanensis*, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 8) M. M. Than, A. H. Banskota, Y. Tezuka, Q. L. Tran, K. Midorikawa, K. Matsushige and S. Kadota: Constituents of Water Extract of Brazilian Propolis, Their Biological Properties and Botanical Origin, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 9) 長岡武馬, A. H. Banskota, 手塚康弘, 松繁克道, 小泉桂一, 播磨谷優子, 済木育夫, 門田重利: プロポリス成分 CAPE 及びその類縁体による癌転移の抑制, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 10) 長谷川秀夫, 長岡武馬, 手塚康弘, 門田重利, 済木育夫: 人参トリオール系サポニン代謝物の脂肪酸抱合物による抗腫瘍効果の発現, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 11) 上田純也, 手塚康弘, A. H. Banskota, Q. L. Tran, Q. K. Tran, 播磨谷優子, 済木育夫, 門田重利: ベトナム産薬用植物

◇総 説

- 1) 手塚康弘: 東南アジア産薬用植物の生物活性成分に関する研究, *Natural Medicines*, 56, 78~83, 2002

◇学会報告

- 1) A. H. Banskota, T. Usia, 手塚康弘, 幸田恭治, 門田重利: Chemical Constituents and Isolation of Two New Taxanes from the Wood

Streptocaulon juvenas の成分研究, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9

- 12) S. Awale, 手塚康弘, 下地清吉, 平良一彦, 門田重利: **Highly Oxygenated Novel Diterpenes of *Orthosiphon stamineus* from Indonesia**, 第 46 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (46th TEAC) ・国際精油シンポジウム (ISEO) 合同大会, 徳島, 2002. 10
- 13) 殷軍, 幸田恭治, 手塚康弘, Q. L. Tran, 陳英傑, 門田重利: **The study of anti-osteoporotic constituents from *Dioscorea Hypoglauca***, 2002 International Osteoporotic Conference, 上海, 2002. 10
- 14) 岩田 宏, T. Usia, 手塚康弘, 門田重利, 平塚 明, 鎌滝哲也, 渡部 烈: **漢方薬を構成する生薬によるヒトシトクロム P450 の阻害**, 第 17 回日本薬物動態学会年会, 東京, 2002. 11

薬物代謝工学部門

教授	服 部 征 雄
助教授	横 澤 隆 子
助手	宮 代 博 継
技 官	中 村 憲 夫

◇著 書

- 1) T. Yokozawa, E. Dong: **Radical-Scavenging Activity of Green Tea Polyphenols**. "Free Radicals in Foods: Chemistry, Nutrition and Health", edited by M. Marello, F. Shahidi and C.T. Ho, Quaker Oats Co., pp. 224~240, Barrington, 2002
- 2) 横澤隆子: **腎障害を伴う高血圧における緑茶ポリフェノール**, "茶の機能---生体機能の新たな可能性", 村松敬一郎, 小國伊太郎, 伊勢村 護, 杉山公男, 山本万里, 学会出版センター, pp. 145~151, 東京, 2002
- 3) 三瀧忠道, 横澤隆子, 二宮裕幸: **大黄ならびに大黄含有漢方方剤・温脾湯の慢性腎不全に対する効果**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 67~73, 東京, 2002
- 4) 家永和治, 三上博輝, 西端良治, 内木 充, 中村 耕, 横澤隆子, 大浦彦吉, 青柳一正, 遠藤 仁: **NZ-419 (内因性抗酸化物) の慢性腎不全進展抑制作用**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 74~76, 東

京, 2002

- 5) 大久保 勉, レカ・ラジュ・ジュネジャ, 横澤隆子: **緑茶ポリフェノールの生体内抗酸化と透析患者への試み**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 120~123, 東京, 2002
- 6) 中川孝子, 横澤隆子, 寺澤捷年: **糖尿病性腎症における漢方方剤の役割**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 138~141, 東京, 2002
- 7) T. Yokozawa, H. Y. Kim, E. J. Cho, J. S. Choi: **Antioxidant Activities of Mustard Leaf (*Brassica juncea*)**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 142~148, 東京, 2002
- 8) 横澤隆子, 中川孝子: **シスプラチン誘発急性腎不全における緑茶タンニンの関与**, "腎とフリーラジカル-第 6 集-", 横澤隆子, 湯川 進監修, 宗 正敏, 青柳一正編, 東京医学社, pp. 206~210, 東京, 2002

◇原 著

- 1) A. A. Abdel-Hafez, N. Nakamura and M Hattori: **Biotransformation of phorbol by human intestinal bacteria**, Chem Pharm Bull., 50, 160~164, 2002
- 2) S. El-Mekkawy, M R. Meselhy, A. A. Abdel-Hafez, N. Nakamura, M Hattori, T. Kawahata and T. Otake: **Inhibition of cytopathic effect of human immunodeficiency virus type-1 by various phorbol derivatives**, Chem Pharm Bull., 50, 523~529, 2002
- 3) L. Wang, B. Min, Y. Li, N. Nakamura, G. Qin, C. Li and M Hattori: **Annonaceous acetogenins from the leaves of *Annona montana***, Bioorg. Med. Chem., 10, 561~565, 2002
- 4) S. Tewtrakul, N. Nakamura, M Hattori, T. Fujiwara and T. Supavita: **Flavanone and flavonol glycosides from the leaves of *Thevetia peruviana* and their HIV-1 reverse transcriptase and HIV-1 integrase inhibitory activities**, Chem Pharm Bull., 50, 630~635, 2002
- 5) C. Ma, N. Nakamura, M Hattori and S. Cai: **Isolation of malonyl oleanolic acid**

- hemiester as anti-HIV protease substance from the stems of Cynomorium songaricum, Chin. Pharm J., 37, 336~338, 2002
- 6) B. Min, H. Lee, K. Bae, J. Gao, N. Nakamura and M. Hattori: Antitumor activity of cultured mycelia of Ganoderma lucidum, Natural Product Sciences, 8, 52~54, 2002
 - 7) J. Hur, J. Park, J. Park, K. Hyun, K. Lee, H. Miyashiro and M. Hattori: Inhibitory effects of ninety nine Korean plants on human immunodeficiency virus type 1 protease activity, Nutraceuticals and Food, 7, 123~127, 2002
 - 8) C. Ma, N. Nakamura, M. Hattori, T. Kawahata and T. Otake: Inhibitory effects of triterpene-azidothymidine conjugates on proliferation of human immunodeficiency virus type 1 and its protease, Chem Pharm Bull., 50, 877~880, 2002
 - 9) J. Gao, B. Min, E. Ahn, N. Nakamura, H. Lee and M. Hattori: New triterpene aldehyde, lucialdehydes A-C, from Ganoderma lucidum and their cytotoxicity against murine and human tumor cells, Chem Pharm Bull., 50, 837~840, 2002
 - 10) J. Zhao, N. Nakamura, M. Hattori, T. Kuboyama, C. Tohda and K. Komatsu: Withanolide derivatives from the roots of Withania somnifera and their neurite outgrowth activities, Chem Pharm Bull., 50, 760~765, 2002
 - 11) B. Min, H. Miyashiro and M. Hattori: Inhibitory effects of quinones on RNase H activity associated with HIV-1 reverse transcriptase, Phytother. Res., 16, S 57~62, 2002
 - 12) C. Ma, N. Nakamura, H. Miyashiro, M. Hattori, K. Komatsu, T. Kawahata and T. Otake: Screening of Chinese and Mongolian herbal drugs for anti-human immunodeficiency virus type 1 (HIV-1) activity, Phytother. Res., 16, 186~189, 2002
 - 13) M. Ohsaki, M. Kurokawa, A. Nawawi, N. Nakamura, M. Hattori and K. Shiraki: Characterization of anti-herpes simplex virus type 1 activity of an alkaloid FK 3000 from Stephania cepharantha, J. Trad. Med., 19, 129~136, 2002
 - 14) I. T. Matsuse, N. Nakamura, P. Basnet, M. Hattori, K. Kamimura and H. Funada: Amino acids and phosphates stimulate hatching of Ochlerotatus koreicoides (Diptera: Culicidae) eggs, Med. Entomol. Zool., 53, S 47~54, 2002
 - 15) C. Zhang, N. Nakamura, S. Tewtrakul, M. Hattori, Q. Sun, Z. Wang and T. Fujiwara: Sesquiterpenes and alkaloids from Lindera chunii and their inhibitory activities against HIV-1 integrase, Chem Pharm Bull., 50, 1195~1200, 2002
 - 16) T. Akao, T. Yoshino, K. Kobashi and M. Hattori: Evaluation of salicin as an antipyretic prodrug that does not cause gastric injury, Planta Med., 68, 714~718, 2002
 - 17) J. Park, J. Hur, J. Park, T. Hatano, T. Yoshida, H. Miyashiro, B. Min, and M. Hattori: Inhibitory effects of Korean medicinal plants and camelliatannin H from Camellia japonica on human immunodeficiency virus type 1 protease, Phytother. Res., 16, 422~426, 2002
 - 18) B. Min, H. Lee, S. Lee, Y. Kim, K. Bae, T. Otake, N. Nakamura and M. Hattori: Antihuman immunodeficiency virus type 1 activity of constituents from Juglans mandshurica, Arch. Pharm Res., 25, 441~445, 2002
 - 19) P. Akani tapi chat, M. Kurokawa, S. Tewtrakul, P. Pramyothin, B. Sripanidkulchal, K. Shiraki and M. Hattori: Inhibitory activities of Thai medicinal plants against herpes simplex type 1, poliovirus type 1, and measles virus, J. Trad. Med., 19, 174~180, 2002
 - 20) T. Yokozawa, C.P. Chen, T. Tanaka and K. Kitani: Effects of sanguin H-6, a component of Sanguisorbae Radix, on lipopolysaccharide-stimulated nitric oxide production, Biochem Pharmacol., 63, 853~858, 2002
 - 21) T. Nakagawa, T. Yokozawa, K. Terasawa, S. Shu, L.R. Juneja and K. Kitani: Protective activity of green tea against free radical- and glucose-mediated protein damage, J. Agric. Food Chem., 50, 2418~2422, 2002
 - 22) J.W. Kim, J.K. No, Y. Ikeno, B.P. Yu, J.S. Choi, T. Yokozawa and H.Y. Chung: Age-related changes in redox status of rat serum, Arch.

- Gerontol. Geriatr., 34, 9~18, 2002
- 23) T. Yokozawa, H.Y. Kim, G. Nonaka and K. Kosuna: Buckwheat inhibits progression of renal failure, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 3341~3345, 2002
- 24) T. Yokozawa, Y. Kashiwada, M. Hattori and H.Y. Chung: Study on the components of Luobuma with peroxytrite-scavenging activity, *Biol. Pharm. Bull.*, 25, 748~752, 2002
- 25) T. Yokozawa, T. Nakagawa, K. Kitani: Antioxidative activity of green tea polyphenol in cholesterol-fed rats, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 3549~3552, 2002
- 26) T. Yokozawa, C.P. Chen, D.Y. Rhyu, T. Tanaka, J.C. Park and K. Kitani: Potential of sanguin H-6 against oxidative damage in renal mitochondria and apoptosis mediated by peroxytrite *in vivo*, *Nephron*, 92, 133~141, 2002
- 27) T. Yokozawa, Y. Mito, K. Wakaki and H. Kashiwagi: Site of methylguanine production and factors that influence production levels, *Nephron*, 92, 356~362, 2002
- 28) T. Yokozawa, H.Y. Kim and E.J. Cho: Erythritol attenuates the diabetic oxidative stress through modulating glucose metabolism and lipid peroxidation in streptozotocin-induced diabetic rats, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 5485~5489, 2002
- 29) T. Yokozawa, H.Y. Kim, E.J. Cho, J.S. Choi and H.Y. Chung: Antioxidant effects of isorhamnetin 3,7-Di-O- β -D-glucopyranoside isolated from mustard leaf (*Brassica juncea*) in rats with streptozotocin-induced diabetes, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 5490~5495, 2002
- 30) T. Nakagawa and T. Yokozawa: Direct scavenging of nitric oxide and superoxide by green tea, *Food Chem. Toxicol.*, 40, 1745~1750, 2002
- 31) D.Y. Rhyu, T. Yokozawa, E.J. Cho and J.C. Park: Prevention of peroxytrite-induced renal injury through modulation of peroxytrite production by the Chinese prescription Wen-Pi-Tang, *Free Radical Research*, 36, 1261~1269, 2002
- 32) T. Nakagawa, T. Yokozawa, T. Oya, M. Sasahara and K. Terasawa: Evaluation of Keishi-bukuryo-gan in a diabetic nephropathy model by comparison with aminoguanidine, butylated hydroxytoluene and captopril, *J. Trad. Med.*, 19, 200~208, 2002
- 33) T. Yokozawa, H.Y. Kim, E.J. Cho and J.S. Choi: Protective effects of the BuOH fraction from mustard leaf in a renal ischemia-reperfusion model, *J. Nutr. Sci. Vitaminol.*, 48, 384~389, 2002
- ◇総説
- 1) T. Yokozawa: Examination of the nitric oxide production-suppressing activity in *Sanguisorbae Radix*, *Oriental Pharmacy and Experimental Medicine*, 2, 69~79, 2002
- 2) 横澤隆子, 野中源一郎, 藤井 創, 小砂憲一: ソバポリフェノールの利用, *New Food Industry*, 44, 49~56, 2002
- ◇学会報告
- 1) Supinya Tewtrakul, 中村憲夫, 藤原民雄, 服部征雄: Flavanone and flavonol glycosides from the leaves of *Thevetia peruviana* and their HIV-1 reverse transcriptase (RT) and integrase (IN) inhibitory activities, 日本薬学会第122年会, 千葉, 2002. 3
- 2) 石田あい, 横澤隆子, 中川孝子, 柳 東泳, 服部征雄: フリーラジカル惹起モデルを用いた黄連の検討, 日本薬学会第122年会, 千葉, 2002. 3
- 3) 金 賢栄, 横澤隆子, 崔 在洙, 趙 恩珠, 崔 弘植, 鄭 海泳: 芥子菜は体内で抗酸化物を作る, 日本薬学会第122年会, 千葉, 2002. 3
- 4) 柳 東泳, 横澤隆子, 服部征雄, 朴 鐘哲: 温脾湯のパーオキシナイトライト消去作用, 日本薬学会第122年会, 千葉, 2002. 3
- 5) 中川孝子, 横澤隆子: 糖尿病性腎症における桂枝茯苓丸の役割, 第45回日本腎臓学会学術総会, 大阪, 2002. 5
- 6) 柳 東泳, 横澤隆子: エピカテキンガレートのパラオキシナイトライト消去作用, 第45回日本腎臓学会学術総会, 大阪, 2002. 5
- 7) Eun-Mi Ahn, N. Nakamura, T. Akao, M. Hattori and T. Nishihara: Searching for estrogenic activity from natural medicines, KSP-JSP-CCTCNM Joint Seminar 2002, Daejeon, Korea, 2002. 8
- 8) A. Hirakawa, B.-S. Min, J.-J. Gao, N.

Nakamura and M Hattori : Cytotoxicity and antitumor activity of triterpenes from *Ganoderma lucidum* KARST, KSP-JSP-CCTCNM Joint Seminar 2002, Daejeon, Korea, 2002. 8

- 9) M Jo, T. Kimura, N. Nakamura, K. Komatsu, K. Shimotohno and M Hattori : Screening of chinese traditional medicines for inhibitory activities on hepatitis C virus polymerase, KSP-JSP-CCTCNM Joint Seminar 2002, Daejeon, Korea, 2002. 8
- 10) 山辺典子, 横澤隆子, 中川孝子, 服部征雄, 大和田 滋 : 糖尿病性腎症における八味地黄丸の影響, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8. 31
- 11) 中川孝子, 横澤隆子, 後藤博三, 大和田 滋, 服部征雄, 柴原直利, 寺澤捷年 : 桂枝茯苓丸による糖尿病性腎症の進展抑制作用, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8. 31
- 12) 高橋京子, 小松かつ子, 渡辺麻里子, 欧陽新収, 呂 紅然, 高橋幸一, 服部征雄, 東 純一 : 心疾患治療薬としての丹参の有効性と薬物間相互作用発現の可能性 : 心臓由来培養細胞ならびにヒト肝 CYP 代謝での検討, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8. 31
- 13) 謝 麗華, 安 恩美, 赤尾光昭, 服部征雄 : Transformation of arctiin to estrogenic substances by human intestinal bacteria, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 9. 1
- 14) 趙 静, 中村憲夫, 高 江静, 赤尾光昭, 服部征雄, 楊 秀偉 : Development of an enzyme immunoassay for quantitative analysis of 12-*O*-Acetylphorbol 13-decanoate, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 9. 1
- 15) 趙 静, 中村憲夫, 服部征雄, 小松かつ子, 楊 秀偉, 邱 明華 : Isolation and structure elucidation of new triterpenoid saponins from the roots of *Sinocrassula asclepiadea*, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9. 5~6
- 16) 中川孝子, 田中 隆, 横澤隆子 : 温脾湯構成生薬並びに大黃・甘草成分の advanced glycation endproducts (AGEs) 形成抑制作用, 第 14 回腎とフリーラジカル研究会, 東京, 2002. 9
- 17) 中川孝子, 横澤隆子, 後藤博三, 寺澤捷年, 大和田滋 : 糖尿病性腎症に対する桂枝茯苓丸の有用性, 第 14 回腎とフリーラジカル研究会, 東京, 2002. 9
- 18) 下遠野久美子, 高橋礼子, 平沢絵美, 山門正

和, 長崎由希子, 藤本善徳, 中村憲夫, 服部征雄 : C 型肝炎ウイルスの RNA ポリメラーゼ阻害物質の探索, 第 46 回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2002. 10

- 19) 中川孝子, 横澤隆子, 佐野光代, 竹内茂彌, 陳 建斌, 源 伸介, 金 武祚 : Cr からの MG 産生に及ぼす (-)-Epigallocatechin 3-*O*-gallate の影響, 第 23 回グアニジノ化合物研究会, 富山, 2002. 9
- 20) 土屋真澄, 中村憲夫, R. Mæselhy, 趙 宇峰, 安 恩美, 服部征雄 : ヒト腸内細菌を利用した Enterolactone, Enterodiol の簡易合成方法の開発, 日本薬学会北陸支部例会, 福井, 2002. 11
- 21) H-J. Park, 条 美智子, 中村憲夫, 服部征雄, 黒川昌彦, 白木公康, J-S. Choi : *In vivo* and *in vitro* antiviral activity of red alga *Symphocladia latiuscula* against herpes simplex viruses, 日本薬学会北陸支部例会, 福井, 2002. 11

◇その他

- 1) 横澤隆子 (分担) : 老化・老年病に対する栄養学的・薬理的・分子遺伝学的手法による干渉に関する総合的研究, 厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究事業研究成果報告書, 2002. 3
- 2) 横澤隆子, 何 立群 : 2001 年度調査・共同研究助成報告 糖尿病性腎症に有効な伝統薬物の探索, 日中医学, Vol. 17 No. 2, pp. 29, 2002
- 3) T. Yokozawa: Protective action of *Sanguisorbae Radix* against oxidative damage in kidney, 国立順天大学校韓医薬研究所セミナー, 韓国, 2002. 6
- 4) 横澤隆子 : 糖尿病性腎症における漢方方剤の役割, 第 17 回茨城県東洋医学研究会, つくば, 2002. 7

恒常性機能解析部門

客員教授 渡 部 烈

◇原 著

- 1) T. Nishiyama, K. Ogura, H. Nakano, T. Kaku, E. Takahashi, Y. Ohkubo, K. Sekine, A. Hiratsuka, S. Kadota, and T. Watabe: Sulfation of environmental estrogens by cytosolic human sulfotransferases, *Drug Metab. Pharmacokin.*, 17, 167~252, 2002

- 2) T. Nishiyama, K. Ogura, H. Nakano, T. Ohnuma, T. Kaku, A. Hiratsuka, K. Muro, and T. Watabe: Reverse geometrical selectivity in glucuronidation and sulfation of cis- and trans-4-hydroxytamoxifens by human liver UDP-glucuronosyltransferases and sulfotransferases, *Biochem Pharmacol.*, **63**, 1817~1830, 2002

◇総 説

- 1) 渡部 烈, 小倉健一郎: トキシコキネティクス/遺伝子工学/MSによるソリブジン薬害発生のメカニズムの解明, *J. Mass Spectrom Soc. Jpn.*, **50**, 155~161, 2002
 2) 渡部 烈, 小倉健一郎, 西山貴仁: ソリブジン薬害発生の分子毒性学的メカニズムとジヒドロピリミジン・デヒドロゲナーゼの遺伝的欠損, *YAKUGAKU ZASSHI*, **122**, 527~535, 2002

◇学会発表

- 1) 平塚 明, 王 延明, 渡部 烈: モルモット肝 Theta クラス glutathione S-transferase T1 および T2 サブユニットの分子クローニングとその酵素化学的特性, 日本薬学会第 122 年回, 千葉, 2002. 3
 2) 小倉健一郎, 原田朋和, 中野浩明, 西山貴仁, 渡部 烈: ヒト肝における植物エストロゲン genistein の硫酸およびグルクロン酸抱合反応, 日本薬学会第 122 年回, 千葉, 2002. 3
 3) 小倉健一郎, 平塚 明, 渡部 烈: 植物エストロゲン genistein のヒト肝における二重抱合体の生成, 第 29 回日本トキシコロジー学会学術年会, 名古屋, 2002. 6
 4) T. Watabe: A molecular mechanism of the lethal interactions between the new antiviral drug, sorivudine, and 5-fluorouracil prodrugs, 14th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations, Sapporo, 2002. 7
 5) K. Ogura, T. Nishiyama, A. Hiratsuka, and T. Watabe: Reverse geometrical selectivity in glucuronidation and sulfation of cis- and trans-4-hydroxytamoxifens by human liver UDP-glucuronosyltransferases and sulfotransferases, 14th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations, Sapporo, 2002. 7
 6) A. Hiratsuka, H. Saito and T. Watabe:

4-Hydroxy-2(E)-nonenal enantiomers-induced cell death in rat clone 9 cells, 14th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations, Sapporo, 2002. 7

- 7) 岩田 宏, T. Usia, 門田重利, 手塚康弘, 平塚 明, 渡部 烈: 生薬エキス 83 種類によるヒト肝 S ヒトクローム P450 (CYP3A4, CYP2D6) の阻害, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 8) 小倉健一郎, 原田朋和, 平塚 明, 渡部 烈: 植物エストロゲン genistein の硫酸およびグルクロン酸による二重抱合反応, 第 75 回日本生化学会大会, 京都, 2002. 10
 9) 平塚 明, 王 延明, 渡部 烈: モルモット肝 glutathione S-transferase T1-1 および T2-2: その免疫化学的および酵素化学的性質, 第 75 回日本生化学会大会, 京都, 2002. 10
 10) 石井健吾, 平塚 明, 淵江 悟, 小倉健一郎, 渡部 烈: ヒト肝可溶性画分における 4-Hydroxy-2(E)-nonenal エナンチオマーの GSH抱合反応, 第 17 回日本薬物動態学会年会, 東京, 2002. 11
 11) 小倉健一郎, 平塚 明, 渡部 烈: 大豆イソフラボン genistein のヒト肝における二重抱合体生成経路, 第 17 回日本薬物動態学会年会, 東京, 2002. 11
 12) 岩田 宏, U. Tepy, 手塚康弘, 門田重利, 平塚 明, 鎌滝哲也, 渡部 烈: 和漢薬によるヒト肝シトクローム P450 の阻害, 第 17 回日本薬物動態学会年会, 東京, 2002. 11

漢方診断学部門

客員教授	柴 原 直 利
客員助教授	喜 多 敏 明
客員助教授	後 藤 博 三
寄付研究部門教員	伏 見 裕 利
	(~平成 14 年 3 月 31 日)
寄付研究部門教員	趙 恩 珠
	(平成 14 年 4 月 1 日~)

◇著 書

- 1) 喜多敏明: 五臓六腑, 「入門漢方医学」日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 東京, pp51~55, 2002
 2) 後藤博三, 寺澤捷年: 漢方薬, 「治療薬 Up-to-Date 2002」, メディカルレビュー社, 東京, pp736~739, 2002
 3) 後藤博三, 関矢信康: 循環器疾患と EBM 高

脂血症・糖尿病を中心に、「漢方治療における EBM—その現状と展望—」, PROGRESS IN MEDICINE, ライフサイエンス, 東京, pp39~44, 2002

◇原 著

- 1) Q. Yang, H. Goto, Y. Shimada, T. Kita, N. Shibahara and K. Terasawa: Effects of Choto-san on hemorheological factors and vascular function in stroke-prone spontaneously hypertensive rats, *Phytomedicine*, 9, 93~98, 2002
- 2) N. Mantani, T. Kogure, S. Sakai, H. Goto, N. Shibahara, T. Kita, Y. Shimada and K. Terasawa: Incidence and clinical features of liver injury related to Kampo (Japanese herbal) medicine in 2,496 cases between 1979 and 1999: problems of the lymphocyte transformation test as a diagnostic method, *Phytomedicine*, 9, 280~287, 2002
- 3) N. Sekiya, T. Kogure, T. Kita, Y. Kasahara, I. Sakakibara, H. Goto, N. Shibahara, Y. Shimada and K. Terasawa: Reduction of plasma triglyceride level and enhancement of plasma albumin concentration by Oren-gedoku-to administration, *Phytomedicine*, 9, 455~460, 2002
- 4) N. Sekiya, Y. Shimada, N. Shibahara, S. Takagi, K. Yokoyama, Y. Kasahara, I. Sakakibara and K. Terasawa: Inhibitory effects of Choto-san (Diao-teng-san), and hooks and stems of *Uncaria sinensis* on free radical-induced lysis of rat red blood cells, *Phytomedicine*, 9, 636~640, 2002
- 5) N. Sekiya, H. Goto, Y. Shimada and K. Terasawa: Inhibitory effects of Keishi-bukuryo-gan on free radical induced lysis of rat red blood cells, *Phytotherapy Research*, 16, 373~376, 2002
- 6) N. Sekiya H. Goto K. Tazawa S. Oida Y. Shimada and K. Terasawa: Keishi-bukuryo-gan preserves the endothelium dependent relaxation of thoracic aorta in cholesterol-fed rabbit by limiting superoxide generation, *Phytotherapy Research*, 16, 524~528, 2002
- 7) T. Kogure, N. Mantani, H. Goto, Y. Shimada, J. Tamura and K. Terasawa: The effect of interleukin-15 on the expression of killer-cell immunoglobulin-like receptors on peripheral natural killer cells in human, *Mediators of Inflammation*, 11, 219~224, 2002
- 8) Y. Shimada, Y. Yokoyama, H. Goto, I. Sakakibara, N. Sekiya, N. Mantani, S. Sakai and K. Terasawa: Protective effect of the hooks and stems of *Uncaria sinensis* against nitric oxide donor-induced neuronal death in cultured cerebellar granule cells, *J. Trad. Med.*, 19, 15~20, 2002
- 9) H. Goto, Y. Shimada, Mtsuna, T. T. Shintani, K. Nagasaka, S. Goto, N. Shibahara and K. Terasawa: Effect of Keishi-bukuryo-gan on asymptomatic cerebral infarction for short term, *J. Trad. Med.*, 19, 46~50, 2002
- 10) Y. Kasahara, H. Goto, Y. Shimada, N. Sekiya, Q. Yang and K. Terasawa: Inhibitory effects of cinnamomi Cortex and cinnamaldehyde on oxygen-derived free radical-induced vasocontraction in isolated aorta of spontaneously hypertensive rats, *J. Trad. Med.*, 19, 51~57, 2002
- 11) N. Shibahara, N. Sekiya, S. Sakai, H. Goto, T. Kita, Y. Shimada, T. Shintani and K. Terasawa: Correlation between "oketsu" syndrome and autonomic nervous activity - a diachronic study in the same subjects-, *J. Trad. Med.*, 19, 81~86, 2002
- 12) N. Mantani, S. Sakai, T. Kogure, H. Goto, N. Shibahara, T. Kita, Y. Shimada and K. Terasawa: Herbal medicine and false-positive results on lymphocyte transformation test, *Yakugaku Zasshi - Journal of the Pharmaceutical Society of Japan*, 122(6), 399~402, 2002
- 13) D. Y. Rhyu, T. Yokozawa, E. J. Cho and J. C. Park: Prevention of peroxytrite-induced renal injury through modulation of peroxytrite production by the Chinese prescription Wen-Pi-Tang, *Free Radical Research*, 36, 1261~1269, 2002
- 14) T. Yokozawa, H. Y. Kim and E. J. Cho: Erythritol attenuates the diabetic oxidative stress through modulating glucose metabolism and lipid peroxidation in streptozotocin-induced diabetic rats, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 5485~5489, 2002

- 15) T. Yokozawa, H. Y. Kim, E. J. Cho and J. S. Choi: Antioxidant effects of isorhamnetin 3, 7-di-O- β -D-glucopyranoside isolated from mustard leaf (*Brassica juncea*) in rats with streptozotocin-induced diabetes, *J. Agric. Food Chem.*, 50, 5490~5495, 2002
- 16) T. Yokozawa, H. Y. Kim, E. J. Cho and J. S. Choi: Protective effects of the BuOH fraction from mustard leaf in a renal ischemia-reperfusion model, *J. Nutr. Sci. Vitaminol.*, 48, 384~389, 2002
- 17) Y. Liu, H. Cao, G. Han, H. Fushimi and K. Komatsu: matK and its nucleotide sequencing of crude drug *Chuanxiong* and phylogenetic relationship between their species from China and Japan, *Acta Pharmaceutica Sinica.*, 37, 63~68, 2002

◇症例報告

- 1) A. Hisanaga, T. Itoh, Y. Hasegawa, K. Emori, T. Kita, A. Okabe and M. Kurachi: A cases of choking syndrome improved by the Kampo extract of Hange-koboku-to, *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 56, 325~327, 2002
- 2) N. Mantani, A. Hisanaga, T. Kogure, T. Kita, Y. Shimada and K. Terasawa: Four cases of panic disorder successfully treated with Kampo (Japanese herbal) medicines: Kami-shoyo-san and Hange-koboku-to, *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 56, 617~620, 2002
- 3) 久永明人, 伊藤 隆, 新沢 敦, 横山浩一, 喜多敏明, 寺澤捷年: 半夏厚朴湯が有効であった睡眠時無呼吸症候群の1例, *日本東洋医学雑誌*, 52, 501~505, 2002
- 4) 小林 豊, 笠原裕司, 喜多敏明, 萬谷直樹, 寺澤捷年: 難治性胃潰瘍に伴う嘔吐に茯苓沢瀉湯が奏効した一例, *日本東洋医学雑誌*, 53, 521~527, 2002
- 5) 柴原直利, 川俣博嗣, 田原英一, 関矢信康, 酒井伸也, 後藤博三, 喜多敏明, 寺澤捷年: 麻黄連・赤小豆湯加減方が有効であった皮膚疾患の3例, *日本東洋医学雑誌*, 53, 663~668, 2002
- 6) 久永明人, 伊藤 隆, 喜多敏明, 横山浩一, 嶋田 豊, 倉知正佳: 緑内障を合併した不眠・抑うつが附子瀉心湯で寛解した1例, *精神科治療学*, 17, 1423~1426, 2002
- 7) 関矢信康, 嶋田 豊, 柴原直利, 喜多敏明, 後藤博三, 寺澤捷年: 腹候と舌苔の関連性についての検討, *漢方の臨床*, 49, 1026~1034, 2002

◇総 説

- 1) 寺澤捷年, 柴原直利: 漢方の卒前教育カリキュラム, *Geriatric Medicine*, 40, 725~728, 2002
- 2) 柴原直利: 漢方医学の卒後教育, 漢方と最新治療, 11, 247~252, 2002
- 3) 柴原直利: 漢方薬, 外科治療, 87, 389~392, 2002
- 4) 喜多敏明: 漢方からみた頭痛のコントロール (シンポジウム), *日本頭痛学会誌*, 29, 7~9, 2002
- 5) 喜多敏明: 漢方医学的見地からの痛み診断, *ペインクリニック*, 23, 991~998, 2002
- 6) 喜多敏明: 漢方による頭痛の治療, *ペインクリニック*, 23, 1127~1134, 2002
- 7) 喜多敏明: 漢方による顔面痛・帯状疱疹後神経痛の治療, *ペインクリニック*, 23, 1281~1287, 2002
- 8) 喜多敏明: 漢方による腰下肢痛の治療, *ペインクリニック*, 23, 1421~1428, 2002
- 9) H. Goto: A report of three cases of diabetic nephropathy satisfactorily treated with traditional herbal medicine- Clinical evaluation of the effect of traditional herbal medicines containing Daio (*Rheirhizoma*) on the regression of diabetic nephropathy with overt proteinuria -, *J. Trad. Med.*, 19, 37~45, 2002
- 10) 後藤博三: 漢方 Do and don't 糖尿病, *Modern Physician*, 22, 1290~1291, 2002
- 11) T. Yokozawa, H. Y. Kim, E. J. Cho: Anti-oxidant activities of mustard leaf (*Brassica juncea*), *Kidney and Free Radical*, 6, 142~148, 2002
- 12) 喜多敏明, 後藤博三, 関矢信康, 寺澤捷年: 駆・血剤の血清脂質・血液循環に対する影響 (基礎), *産婦人科漢方研究のあゆみ*, 19, 13~18, 2002

◇学会報告

- 1) 喜多敏明: 不定愁訴患者を病氣と未病とに分類する試み, 第8回日本未病システム学会, 金沢, 2002. 1
- 2) H. Goto: Past, present and future of studies on Oketsu in Japan, *Proceeding of 2002 International Symposium of Traditional*

- Korean Medicine, Seoul, 2002. 4
- 3) 柴原直利, 後藤博三, 喜多敏明, 森崎龍郎, 関矢信康, 嶋田豊, 寺澤捷年: 苓桂朮甘湯が有効であった起立性低血圧の2例 一作用機序についての一考察, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 4) 喜多敏明, 柴原直利, 後藤博三, 萬谷直樹, 地野充時, 寺澤捷年: 加味逍遙散, 抑肝散加陳皮半夏, 桂枝加竜骨牡蛎湯の証と性格特性との関係, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 5) 後藤博三, 柴原直利, 喜多敏明, 嶋田 豊, 寺澤捷年, 小林祥泰, 松井龍吉, 三瀧忠道, 新谷卓弘, 長坂和彦: 「未病を治す」漢方治療 高齢化社会に向かつて 無症候性脳梗塞に対する桂枝茯苓丸を主とした和漢薬の長期投与効果の検討, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 6) 酒井伸也, 柴原直利, 嶋田 豊, 萬谷直樹, 笠原裕司, 寺澤捷年: 多発性硬化症に伴う有痛性強直性攣縮に対する和漢薬治療の経験, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 7) 関矢信康, 喜多敏明, 小暮敏明, 柴原直利, 嶋田 豊, 寺澤捷年: 九味檳榔湯の新たな使用目標に関する一考察, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 8) 谷川聖明, 立野 豊, 後藤博三, 寺澤捷年: 温脾湯が有効であった糖尿病性腎症の一例, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 9) 貝沼茂三郎, 萬谷直樹, 地野充時, 小暮敏明, 後藤博三, 嶋田 豊, 寺澤捷年: 高齢者の C 型慢性肝炎に対するインターフェロンと麻黄湯の併用療法についての検討, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 10) 地野充時, 井上博喜, 小暮敏明, 後藤博三, 寺澤捷年: 肘后方奔豚湯加味方が有効であった2症例, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 11) 四日順子, 奥野和子, 石黒伸昌, 小橋由希子, 北川洋子, 柴原直利, 嶋田 豊, 寺澤捷年: 冷えによる苦痛の軽減を目指して 日常生活における「冷え」予防パンフレットを用いて, 第 53 回日本東洋医学学会学術総会, 名古屋, 2002. 6
 - 12) 土田悦子, 北川洋子, 喜多敏明, 貝沼茂三郎, 寺澤捷年: インターフェロンと麻黄湯の併用療法を行った C 型慢性肝炎患者における治療前後での QOL の検討, 第 53 回日本東洋医学学会総会, 名古屋, 2002. 6
 - 13) 曹 基湖, 文 祥官, 後藤博三, 寺澤捷年: 脳卒中発症初期患者に対する涼膈散火湯の有用性の検討, 第 53 回日本東洋医学学会総会, 名古屋, 2002. 6
 - 14) 喜多敏明: 高齢者の痛みの漢方療法 (シンポジウム・指定講演), 第 15 回日本疼痛漢方研究会, 東京, 2002. 8
 - 15) 北本亮一, 喜多敏明, 後藤博三, 柴原直利: 肩関節痛に対する二朮湯の治療成績, 第 15 回日本疼痛漢方研究会, 東京, 2002. 8
 - 16) 柴原直利, 後藤博三, 喜多敏明, 関矢信康, 嶋田 豊, 寺澤捷年: 自律神経活動に対する桂枝茯苓丸の影響, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 17) 喜多敏明, 柴原直利, 日高隆雄, 内 尚子, 齋藤 滋, 寺澤捷年: 更年期障害に対する桂枝茯苓丸の使用経験, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 18) 後藤博三, 嶋田 豊, 関矢信康, 笠原裕司, 楊 喬, 柴原直利, 喜多敏明, 寺澤捷年: 糖尿病モデル (WBN/Kob) ラットにおける桂枝茯苓丸の血管保護作用, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 19) 嶋田 豊, 横山浩一, 後藤博三, 関矢信康, 引網宏彰, 酒井伸也, 寺澤捷年: 培養ラット小脳顆粒細胞における NO donor 誘導神経細胞死に対する桂枝茯苓丸及びその構成生薬の保護作用, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 20) 横山浩一, 嶋田 豊, 堀 悦郎, 関矢信康, 後藤博三, 西条寿夫, 寺澤捷年: 釣藤散の一過性脳虚血モデルにおける神経細胞保護作用の検討, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 21) 関矢信康, 新沢敦, 酒井伸也, 小暮敏明, 柴原直利, 嶋田豊, 寺澤捷年: 粉防己 (Stephaniatetrandra) の抗酸化作用の検討, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 22) 佐々木洋平, 後藤博三, 畠中文幸, 柴原直利, 寺澤捷年, 小松かつ子: Curcuma 属植物の分子系統学的解析と鬱金類生薬の血管作動性について, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 23) 中川孝子, 横澤隆子, 後藤博三, 大和田滋, 服部征雄, 柴原直利: 桂枝茯苓丸による糖尿病性腎症の進展抑制作用, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
 - 24) 後藤博三, 嶋田 豊, 谷川聖明, 佐藤重彦, 引網宏彰, 関矢信康, 柴原直利, 寺澤捷年:

- 糖尿病性腎症顕性腎症期患者に対する大黃含有漢方方剤の長期投与効果の検討, 第 14 回腎とフリーラジカル研究会, 東京, 2002. 9
- 25) 後藤博三, 柴原直利, 喜多敏明, 嶋田 豊, 関矢信康, 寺澤捷年: 生薬・釣藤鈎の血管弛緩作用機序と自然発症高血圧ラット (SHR) に対する効果に関する検討, 第 23 回グアニジン化合物研究会, 富山, 2002. 9
- 26) 日高隆雄, 内 尚子, 斎藤 滋, 喜多敏明, 柴原直利, 寺澤捷年: 更年期障害に対する桂枝茯苓丸および加味逍遙散の効果, 第 22 回産婦人科漢方研究会学術集会, 旭川, 2002. 9
- 27) 後藤博三: 無症候性脳梗塞に対する桂枝茯苓丸の効果 (北陸支部奨励賞受賞講演), 第 28 回日本東洋医学会北陸支部例会, 金沢, 2002. 10
- 28) 金賢栄, 横澤隆子, 崔在洙, 趙恩珠, 崔弘植, 鄭海泳: 芥子菜は体内で抗酸化物を作る, 日本薬学会第 122 年会, 千葉, 2002. 3

◇その他

- 1) 喜多敏明: 更年期障害の漢方治療, 永春会, 富山, 2002. 1
- 2) 柴原直利, 喜多敏明: 症例検討・漢方診断実習, 北陸地区漢方カンファレンス, 富山, 2002. 1
- 3) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・消化器疾患における漢方治療・漢方診察方法・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 大阪, 2002. 2
- 4) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・不定愁訴の漢方治療・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 大阪, 2002. 2
- 5) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・補剤の使い方・漢方診断実習, 新潟白銀漢方セミナー, 新潟, 2002. 2
- 6) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・更年期障害の漢方治療・漢方診察方法, 北陸産婦人科漢方入門集中セミナー, 金沢, 2002. 2
- 7) 後藤博三: ・血病態の東西医学的解明と駆血剤の臨床応用, 平成 13 年度日本東洋医学会東海地区専門医制度委員会学術講演会, 名古屋, 2002. 2
- 8) 喜多敏明: 漢方概論・不定愁訴と消化器・呼吸器疾患に対する漢方治療・漢方診察方法, 常総漢方入門セミナー, 筑波, 2002. 3
- 9) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・消化器疾患における漢方治療・漢方診察方法・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 東京, 2002. 3
- 10) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・不定愁訴の漢方治療・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 東京, 2002. 3
- 11) 後藤博三: 皮膚科における和漢薬概説, 皮膚科漢方入門セミナー, 富山, 2002. 3
- 12) 喜多敏明: 漢方の知恵〜痛み・疲れと漢方, 石川松任郡市医師会学術講演会, 松任, 2002. 4
- 13) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・補剤による漢方治療・漢方診察方法・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 富山, 2002. 5
- 14) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・不定愁訴の漢方治療・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 札幌, 2002. 5
- 15) 後藤博三: 漢方概論 (気血水) ・疾患別処方解説・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 札幌, 2002. 5
- 16) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・補剤による漢方治療・漢方診察方法・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 福岡, 2002. 6
- 17) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・不定愁訴の漢方治療・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 岡山, 2002. 6
- 18) 後藤博三: 漢方概論 (気血水) ・疾患別処方解説・漢方診察方法, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 岡山, 2002. 6
- 19) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・補剤による漢方治療・漢方診察方法・漢方医学教育の実際と漢方医学のエビデンス, 大学勤務医のための漢方医学セミナー, 名古屋, 2002. 7
- 20) 柴原直利: 漢方概論 (気血水) ・風邪処方について・補剤の使い方・漢方診断実習, 新潟はまなす漢方セミナー, 長岡, 2002. 7
- 21) 喜多敏明: 今なぜ漢方医学なのかー西洋医学との相互補完的關係ー, 徳島文理大学薬学部大学院特別講義, 徳島, 2002. 7
- 22) 後藤博三: 防風通聖散について, 富山漢方会, 富山, 2002. 8
- 23) 柴原直利: 補剤の臨床応用・症例検討, 神戸漢方ステップアップセミナー, 神戸, 2002. 9
- 24) 喜多敏明: 高齢者疾患の特徴と頻用処方・症例検討, 神戸漢方ステップアップセミナー, 神戸, 2002. 9
- 25) 喜多敏明: 漢方概論 (陰陽・虚実) ・風邪症

候群，消化器症状，不定愁訴の漢方治療・漢方診察方法，大洗漢方入門セミナー，茨木，2002. 9

- 26) 喜多敏明：漢方医学概論・風邪症候群，消化器症状の漢方治療・漢方診察方法，山梨漢方入門セミナー，山梨，2002. 9
- 27) 喜多敏明：消化器領域と漢方一下痢・便秘を中心に，京都府医師会学術講演会・臨床漢方医学講座，京都，2002. 10
- 28) 柴原直利：痛みに対する漢方治療のいろいろ，第5回兵庫県臨床漢方研究会，神戸，2002. 10
- 29) 柴原直利：漢方と健康，八人町健康教室，富山，2002. 10
- 30) 喜多敏明：富山医科薬科大学の漢方研究紹介・生薬の薬理と薬能から見た漢方処方解説・難渋症例に対する一工夫・漢方診察方法，平成14年度山梨漢方セミナーステップアップ編，山梨，2002. 11
- 31) 柴原直利：症例検討・漢方医学教育の実際，漢方医学カンファレンス2002，東京，2002. 11
- 32) 後藤博三：症例検討，漢方医学カンファレンス2002，東京，2002. 11
- 33) 喜多敏明：ストレス病態の漢方治療，第11回北海道精神神経科漢方医学研究会，札幌，2002. 11
- 34) 喜多敏明：冷え症の漢方治療，サタデー健康ホットライン，NHK(BS2)，2002. 11
- 35) 喜多敏明：呼吸器領域と漢方一風邪を中心に，京都府医師会学術講演会・臨床漢方医学講座，京都，2002. 12

薬効解析センター

センター長	小松 かつ子 (併任)
助教授	小松 かつ子
助手	東田 千尋
客員教授	Meselhy Ragab Meselhy (~平成14年9月30日)
客員助教授	Dawa

◇著 書

- 1) K. Komatsu: Authentication based on 18S ribosomal RNA gene and *matK* gene sequences. "Authentication of Chinese Medicinal Materials by DNA Technology, edited by Shaw P. C., Wang J., and But P. P. H., World Scientific Publishing, pp. 193 ~ 212, Singapore, 2002
- 2) 小松かつ子，伏見裕利：「和漢薬の事典」難波恒雄監修，富山医科薬科大学和漢薬研究所

編，419pp，朝倉書店，東京，2002

◇原 著

- 1) K. Zou, S. Zhu, C. Tohda, S. Q. Cai and K. Komatsu: Dammarane-type triterpene saponins from Panax japonicus, J. Nat. Prod. 65, 346~351, 2002
- 2) K. Zou, S. Zhu, M R. Meselhy, C. Tohda, S. Q. Cai and K. Komatsu: Dammarane-type saponins from Panax japonicus and their neurite outgrowth activity in SK-N-SH cells, J. Nat. Prod. 65, 1288~1292, 2002
- 3) 難波恒雄，鐘 国躍，伏見裕利，小松かつ子：正倉院薬物「鬼臼」の基源について，和漢医薬学雑誌，19，181~188，2002
- 4) C. Tohda, N. Matsumoto, K. Zou, M R. Meselhy and K. Komatsu: Axonal and dendrite extension by protopanaxadiol-type saponins from Ginseng drugs in SK-N-SH cells, Jpn. J. Pharmacol. 90, 254~262, 2002
- 5) T. Kuboyama, C. Tohda, J. Zhao, N. Nakamura, M Hattori and K. Komatsu: Axon- or dendrite-predominant outgrowth induced by constituents from Ashwagandha, NeuroReport, 13, 1715~1720, 2002
- 6) J. Zhao, N. Nakamura, M Hattori, T. Kuboyama, C. Tohda and K. Komatsu: Five new withanolide derivatives from the roots of Withania somnifera, Chem Pharm Bull. 50, 760~765, 2002
- 7) Y. Sasaki, H. Fushimi, H. Cao, S. Q. Cai and K. Komatsu: Sequence Analysis of Chinese and Japanese Curcuma Drugs on the 18S rRNA Gene and *trnK* Gene and the Application of Amplification-Refractory Mitation System Analysis for Their Authentication, Biol. Pharm Bull. 25, 1593~1599, 2002
- 8) C. M Ma, N. Nakamura, H. Myashiro, M Hattori, K. Komatsu, T. Kawahata and T. Otake: Screening of Chinese and Mongolian Herbal Drugs for Antihuman Immunodeficiency Virus Type 1 (HIV-1) Activity, Phytother. Res. 16, 186~189, 2002
- 9) K. Takahashi, X. Ouyang, K. Komatsu, N. Nakamura, M Hattori, A. Baba and J. Azuma: Sodium tanshinone IIA sulfonate derived from Danshen (Salvia miltiorrhiza) attenuates hypertrophy induced by

angiotensin II in cultured neonatal rat cardiac cells, *Biochem Pharmacol.* 64, 745~749, 2002

- 10) 高橋京子, 花谷忠昭, 渡邊麻里子, 高谷朋夏, 小松かつ子, 高橋幸一, 東純一: 中国伝統医薬の薬物相互作用について: 丹参製剤に含有される CYP 代謝阻害物質の探索, *臨床薬理学雑誌*, 33, 409S~410S, 2002
- 11) Y. P. Liu, H. Cao, G. R. Han, H. Fushimi and K. Komatsu: matK and its nucleotide sequencing of crude drug *Chuanxiong* and phylogenetic relationship between their species from China and Japan, *Acta Pharmaceutica Sinica*, 37, 63~68, 2002

◇学会報告

- 1) 東田千尋, 小松かつ子: 中枢神経細胞の軸索終末へ輸送される mRNA の解析, 第 75 回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
- 2) 久保山友晴, 東田千尋, 服部征雄, 小松かつ子: 軸索あるいは樹状突起を優先的に伸展させるインド生薬 *Ashwagandha* (*Withania somnifera* Dunal の根) 成分の解析, 第 75 回日本薬理学会年会, 熊本, 2002. 3
- 3) 高橋京子, 小松かつ子, 欧陽新収, 松田貴久, 程 新耀, 中村憲夫, 服部征雄, 東 純一: 心臓由来培養細胞に対する丹参製剤の作用, 日本薬学会第 122 年会, 千葉, 2002. 3
- 4) 小松かつ子: Molecular analysis of medicinally-used *Curcuma* plants and its application for the identification of related drugs, 中華民国生薬学会九十一年度第四回第二次会員大会・学術討論会(特別講演), 高雄(中華民国), 2002. 5
- 5) 久保山友晴, 東田千尋, 小松かつ子: Neurite outgrowth effects of withanolide A, withanoside IV and withanoside VI in A₂₅₋₃₅-induced atrophy of neurites, 第 45 回日本神経化学会, 札幌, 2002. 7
- 6) 田村隆幸, 東田千尋, 小松かつ子: Therapeutic effects of Zokumei-to on spatial learning impairment and synaptic loss in a mouse model of Alzheimer's disease, 第 45 回日本神経化学会, 札幌, 2002. 7
- 7) 西田裕子, 高橋京子, 上島悦子, 小松かつ子, 佐々木陽平, 廣谷芳彦, 荒川行生, 竹上 学, 片岡和三郎, 黒川信夫, 東 純一: OTC 薬による薬物間相互作用発現の可能性: ヒト肝ミクロソーム代謝活性での検討, 第 10 回医療薬学シンポジウム, 千葉, 2002. 7
- 8) 佐々木陽平, 後藤博三, 畠中史幸, 柴原直利, 寺澤捷年, 小松かつ子: Curcuma 属植物の分子系統学的解析と鬱金類生薬の品質に関する研究(2)—鬱金類生薬の血管作動性について, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8
- 9) 小松かつ子, 高橋京子, P. Basnet, 劉玉萍, 渡邊麻里子, 富森毅, 宮一論起範, 東 純一: 黄ゴン市場品によるヒト肝 CYP 代謝活性への影響: 品質との関係, 第 19 回和漢医薬学会, 千葉, 2002. 8
- 10) 高橋京子, 小松かつ子, 渡邊麻里子, 欧陽新収, 呂 紅然, 高橋幸一, 服部征雄, 東 純一: 心疾患治療薬としての丹参の有効性と薬物間相互作用発現の可能性: 心臓由来培養細胞ならびにヒト肝 CYP 代謝での検討, 第 19 回和漢医薬学会, 千葉, 2002. 8
- 11) 楊 冬野, 伏見裕利, 蔡少青, 小松かつ子: Rheum 属植物の分子系統学的研究(2)—matK 遺伝子と rbcl 遺伝子の塩基配列, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 12) 小松かつ子, 長山頼信, M R. Mselhy, 凌 雲, 蔡 少青: 大黃の基源と品質に関する研究—Rheum 属の遺伝子多型との対比, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 13) 佐々木陽平, 伏見裕利, 小松かつ子: Curcuma 属植物の分子系統学的解析と鬱金類生薬の品質に関する研究(3)—植物と生薬の SNPs 解析, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 14) S. Zhu, 伏見裕利, 蔡 少青, 小松かつ子: Authentication of Ginseng Drugs by Multiple Amplification Refractory Mutation System (MARMS), 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 15) 趙静, 中村憲夫, 服部征雄, 小松かつ子, 楊秀偉, 邱 明華: Isolation and Structure Elucidation of New Triterpenoid Saponins from the Roots of *Sinocrassula asclepiadea*, 日本生薬学会第 49 回年会, 福岡, 2002. 9
- 16) 西田裕子, 高橋京子, 上島悦子, 小松かつ子, 佐々木陽平, 荒川行生, 山本克巳, 竹上 学, 片岡和三郎, 黒川信夫, 東 純一: ウコン(Curcuma)属生薬のヒト肝 CYP 代謝活性への阻害効果, 第 23 回臨床薬理学会, 大阪, 2002. 12

◇その他

- 1) 小松かつ子: 蛇床子エキスの抗そう痒活性成分の探索, 平成 13 年度受託研究「和漢薬・

- バイオテクノロジー研究」研究成果報告書, pp. 28~31, 2002
- 2) 小松かつ子：北伝アーユルヴェーダ～チベット医学とモンゴル医学, *Aromatopia* (特集 生活に取り入れるアーユルヴェーダ), 52, 52~60, 2002
 - 3) 小松かつ子：分子生物学的手法を応用した生薬の同定, *ファルマシア* (特集 生薬学・天然物化学, 21世紀の百花繚乱), セミナー, 38, 841~845, 2002
 - 4) 東田千尋：カレースパイス成分のクルクミンがアルツハイマー痴呆を予防する, *ファルマシア*, 38, 891~892, 2002
 - 5) 東田千尋：カッツング薬理学 原書 8 版 (翻訳分担), pp. 1209~1226, 2002
 - 6) 小松かつ子：神経突起伸展を誘導する伝統薬物の検討, 平成 13 年度日本東洋医学会北陸支部特別講演会・専門医制度夏季教育講演会, 福井, 2002. 7
 - 7) 小松かつ子：体験実習 1. 生薬方剤の鑑定に挑戦・丸剤作りに挑戦, 第 7 回和漢薬研究所夏期セミナー, 大山町, 2002. 8
 - 8) 小松かつ子：中国における三七人參, 大黃, 鬱金類の調査とそれらの分子系統学的解析, 2002. 5
 - 9) 小松かつ子：野外で薬草を勉強する会, 富山県薬事研究所, 砺波, 2002. 7
 - 10) 小松かつ子：和漢薬資源とバイオテクノロジー, 富山県いきいき長寿大学高岡校講座, 富山校講座, 高岡, 富山, 2002. 8
 - 11) 小松かつ子：伝統薬物による痴呆改善作用の薬理学的解析と作用本体の解明, 平成 13 年度教育研究学内特別経費研究成果発表会, 富山, 2002. 10
 - 12) 小松かつ子：分子生物学的手法を応用した生薬の同定, 特別講演, 日本医薬品食品衛生研究所, 東京, 2002. 10
 - 13) 小松かつ子：チベット—モンゴル薬草紀行, 第 5 回民族薬物資料館一般公開, 富山, 2002. 11
 - 14) K. Komatsu: Molecular analysis of medicinally-used Curcuma plants and its application for the identification of related drugs. Core University Program JSPS, Prince of Songkla Univ., Srinakharinwirot Univ., Thailand, 2002. 11. 13, 11.29

並びに品質について, 薬草を広める会, 上市,